

多根総合病院

2025 年度 年報

目次

施設概要.....	3
◆内科.....	5
◆総合診療内科.....	6
◆循環器内科.....	6
◆消化器内科.....	8
◆脳神経内科.....	10
◆外 科.....	11
◆緩和医療科.....	16
◆整形外科.....	17
◆脳神経外科.....	17
◆小児科.....	21
◆泌尿器科.....	22
◆皮膚科.....	23
◆婦人科.....	23
◆耳鼻咽喉科.....	24
◆形成外科.....	27
◆歯 科.....	29
◆麻酔科.....	29
◆放射線診断科.....	30
◆放射線治療科.....	32
◆救急科.....	34
◆腫瘍内科.....	34
◆DS(日帰り手術)センター.....	36

◆看護部.....	37
◆薬剤部.....	39
◆医療技術部 中央検査部門	42
◆医療技術部 臨床工学部門	43
◆医療技術部 リハビリテーション部門.....	44
◆医療技術部 栄養管理部門	45
◆医療安全管理部	49
◆医療技術部 内視鏡部門.....	48
◆感染制御部.....	50
◆卒後臨床研修センター	52
◆事務部.....	53

施設概要

【所在地】

〒550-0025 大阪市西区九条南 1-12-21

TEL 06-6581-1071

FAX 06-6581-2520

【アクセス】

・ 電車

JR 環状線大正駅

または大阪メトロ長堀鶴見緑地線大正駅下車

または阪神なんば線大正駅下車徒歩8分

・ 大阪シティバス

なんば駅前(60)天保山行、境川下車すぐ

大阪駅前(88)天保山行、境川下車すぐ

淀屋橋駅前(107)弁天町バスターミナル行、境川下車すぐ



【施設概要】

病 院 長	小川 稔
開 設 日	1949 年(昭和 24 年)10 月(1969 年 7 月に総合病院の名称承認)
病 床 数	304 床
標 榜 科 目	内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・脳神経内科・疼痛緩和内科・外科 呼吸器外科・消化器外科・内視鏡外科・乳腺外科・肛門外科・整形外科・脳神経外科 形成外科・泌尿器科・婦人科・耳鼻いんこう科・リハビリテーション科・放射線診断科 放射線治療科・病理診断科・臨床検査科・救急科・小児科・皮膚科・麻酔科・歯科
土地・建物(㎡)	敷地面積:5,514.29 ㎡ 延床面積:23,389.81 ㎡
指定・認定関係	大阪府がん診療拠点病院、厚生労働省指定臨床研修指定病院、災害拠点病院 臨床検査技師実習指定病院、薬剤師実務研修施設、看護学校実習指定病院 救急告示病院(二次救急指定病院)、病院群輪番制病院、マンモグラフィ検診施設 大阪公立大学医学部臨床実習施設、大阪医科薬科大学臨床教育協力機関 兵庫医科大学第 6 学年次「自由選択実習」協力施設 新専門医制度専門研修プログラム内科領域基幹施設 日本内科学会認定教育関連施設、日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度関連施設、大阪府肝炎専門医療機関 日本大腸肛門病学会認定施設 日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設 日本外科学会外科専門医制度修練施設、日本消化器外科学会専門医修練施設 日本乳癌学会関連施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設(連携施設)、日本緩和医療学会認定研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本脳神経外科学会専門医研修施設、日本脳卒中学会専門医制度研修教育施設 日本脳卒中学会認定 一次脳卒中センター、日本神経学会認定教育施設 日本整形外科学会認定医制度による研修施設、日本手外科学会関連研修施設 日本泌尿器科学会拠点教育施設、日本麻酔科学会認定病院 日本形成外科学会認定施設、日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設 日本気管食道科学会認定気管食道科専門医研修施設(咽喉系) 日本鼻科学会鼻科手術認可研修施設 日本医学放射線学会 放射線科専門医修練機関

	日本放射線腫瘍学会認定施設、日本病院総合診療医学会認定施設 日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設、日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設 日本臨床栄養代謝学会 栄養サポートチーム専門療法士認定規定認定教育施設 日本救急医学会認定救急科専門医指定施設
基準関係	一般病棟入院基本料(7対1)、臨床研修病院入院診療加算、救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算、超急性期脳卒中加算、診療録管理体制加算、医師事務作業補助体制加算(15対1)、急性期看護補助体制加算(25対1)、夜間100対1急性期看護補助体制加算、療養環境加算、重症者等療養環境特別加算、栄養サポートチーム加算、医療安全対策加算1、感染防止対策加算1、感染防止対策地域連携加算、褥瘡ハイリスク患者ケア加算、退院支援加算1、退院支援加算2、救急搬送患者地域連携紹介加算、救急搬送患者地域連携受入加算、呼吸ケアチーム加算、病棟薬剤業務実施加算、データ提出加算2(イ)、特定集中治療室管理料3、ハイケアユニット入院医療室管理料1、緩和ケア病棟入院料、短期滞在手術基本料2、歯科外来診療環境体制加算、糖尿病合併症管理料、がん性疼痛緩和指導管理料、がん患者指導管理料1、がん患者指導管理料2、糖尿病透析予防指導管理料、院内トリアージ実施料、夜間休日救急搬送医学管理料、外来リハビリテーション診療料、外来放射線照射診療料、ニコチン依存症管理料、開放型病院共同指導料、がん治療連携計画策定料、薬剤管理指導料、診療情報提供料(Ⅰ)の検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報、医療機器安全管理料1、医療機器安全管理料2、歯科治療総合医療管理料、在宅療養後方支援病院、造血管腫瘍遺伝子検査、HPV核酸検出、検体検査管理加算(Ⅰ)、検体検査管理加算(Ⅳ)、ヘッドアップティルト試験、神経学的検査、センチネルリンパ節生検、遠隔診断、画像診断管理加算2、CT撮影及びMRI撮影、冠動脈CT撮影加算、心臓MRI撮影加算、乳房MRI撮影加算、抗悪性腫瘍剤処方管理加算、外来化学療法加算1、無菌製剤処理料、心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)、脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)、運動器リハビリテーション料(Ⅰ)、呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)、がん患者リハビリテーション料、歯科口腔リハビリテーション料2、処置の加算、手術の加、CAD/CAM冠、乳がんセンチネルリンパ節加算1及び2、骨移植、経皮的冠動脈形成術、経皮的ステント留置術、ペースメーカー移植術及び交換術、大動脈バルーンパンピング法、体外衝撃波胆石破碎術、体外衝撃波膀胱石破碎術、腹腔鏡下膀胱体尾部腫瘍切除術、早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術、体外衝撃波腎・尿管結石破碎術、膀胱水圧拡張術、人工尿道括約筋植込・置換術、点数表手術の通側5及び6の手術、輸血管理料Ⅰ、輸血適正使用加算、人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算、麻酔管理料(Ⅰ)、放射線治療専任加算、外来放射線治療加算、高エネルギー放射線治療、1回線量増加加算、強度変調放射線治療(IMRT)、画像誘導放射線治療加算、体外照射呼吸性移動対策加算、直線加速器による定位放射線治療、定位放射線治療呼吸性移動対策加算、病理診断管理加算Ⅰ、口腔病理診断管理加算Ⅰ、クラウン・ブリッジ維持管理料、ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術、組織拡張器による再建手術(乳房)、入院時食事療養(Ⅰ)
第三者評価	財)日本医療機能評価機構認定病院

(2026年3月現在)

◆内科

【部 署 概 要】

当院の内科は消化器内科、呼吸器内科、循環器内科および総合診療内科(感染症内科、糖尿病内科等)の各科が協力して入院診療を行なう体勢になっている。それに加え、外来では代謝内分泌内科、肝臓内科、膠原病内科、血液内科の専門の医師が診療に従事している。各科の医師は専門性を高めつつ、内科全般を診療することで多根総合病院の特色を出している。研修医を終了した後も専攻医として内科に籍を置いて専門性を高める若手医師もコンスタントに輩出している状況である。これから「活気ある内科」を継続していく所存である。

【診 療・体 制】

【スタッフ】

瓦林 孝彦 副院長／内科統括部長
 浅井 哲 消化器内科・内視鏡センター部長
 土井 淳史 循環器内科部長
 岩村 世晴 循環器内科部長
 高宮 みさき 感染症内科部長
 天久 康絢 呼吸器内科副部長
 新田 洋介 内科副部長
 高岡 奈央子 循環器内科副部長
 赤峰 瑛介 消化器内科副部長
 中尾 栄祐 消化器内科副部長
 竹下 宏太郎 消化器内科副部長
 加納 由貴 消化器内科医長
 松尾 健司 消化器内科医長
 田中 佐和 循環器内科医長
 大舘 秀太 消化器内科医長
 塚本 拓也 医局員
 岡本 拓也 医局員
 橋村 友哉 医局員
 久松 健人 医局員
 尾下 卓也 医局員
 森脇 和希 医局員
 島 佳弘 医局員
 橋本 沙優里 医局員
 川崎 健生 医局員
 杉原 拓実 医局員

【特 色・トピックス】

呼吸器内科に天久先生を迎え、呼吸器内科の入院診療が強化されている。

【診 療・部署実績】

各科の診療実績を参照

◆総合診療内科

【部 署 概 要】

総合診療科は様々な訴えで来院される初診の患者に対して、未だ診断のついていない内科疾患や臓器を特定できない疾患の診療を行なっている。入院診療においては不明熱をはじめ、肺炎などの様々な感染症、専門診療を必要としない内科疾患を扱っている。

【診 療・体 制】

【スタッフ】

高宮 みさき 感染症内科部長
 赤峰 瑛介 消化器内科副部長
 天久 康絢 呼吸器内科副部長
 新田 洋介 内科副部長
 大舘 秀太 消化器内科医員
 森脇 和希 循環器内科医員
 並川 浩己 非常勤

【特 色・トピックス】

内科の各科の医師が、専門性を保ちつつ総合的な内科診療にも従事している。

◆循環器内科

【部 署 概 要】

当院では下記の疾患群に特に力を入れて診療している。

1. 胸痛を主訴とした狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患
2. 下肢の疼痛や間欠性跛行の原因となる閉塞性動脈硬化症
3. 息切れを主訴とするような慢性心不全、心臓弁膜症
4. 動悸・失神などの原因となる不整脈
5. 動脈硬化を促進する高血圧、脂質異常症、糖尿病

入院では心臓カテーテル検査、冠動脈形成術、下肢動脈血管形成術、恒久ペースメーカー植え込み術、アブレーションなどを中心とした侵襲的治療から、最近高齢化に伴い急速に増加してきた慢性心不全の治療にも積極的に取り組んでいる。また、検査では冠動脈 CT、心エコー図や心臓シンチグラムを駆使して正確な診断に努めている。

【診 療・体 制】

緊急カテーテル検査はオンコール体制にて対応している。

増加する心不全に対して治療体制を整備している。

侵襲的な治療や検査は常に安全に留意している。

【スタッフ】

瓦林 孝彦 副院長／内科統括部長
 土井 淳史 部長
 岩村 世晴 部長
 高岡 奈央子 副部長
 田中 佐和 医長

塚本 拓也 医局員
尾下 卓也 医局員
森脇 和希 医局員

【特 色・トピックス】

不整脈治療を積極的に取り入れた結果、アブレーション治療件数は順調に増加した。特に心房細動は放置すると、脳梗塞や心不全のリスクとなることが知られるようになったため開業医の先生方から多くの紹介を得ることができた。また、カテーテル治療に関しても、急性冠症候群や虚血性心疾患の対応がスムーズにできた。心不全の患者は年々増加傾向にあり、心エコー件数も増加している。不整脈、虚血、心不全の治療で社会貢献していきたい。

【診 療・部署実績】

入院患者数

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
循環器疾患患者退院数	403	371	372	385	413
心不全	154	172	153	138	110
慢性虚血性心疾患	99	50	52	72	93
急性冠症候群	77	46	46	59	44
閉塞性動脈硬化症	27	34	28	12	10
不整脈	—	39	77	82	117

循環器疾患の検査件数

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
冠動脈造影（緊急含む）	105	116	89	90	72
経皮的冠動脈形成術	57	28	33	61	46
緊急経皮的冠動脈形成術	56	34	42	53	44
経皮的下肢動脈形成術	37	33	33	9	9
ペースメーカー植込み（新規）	11	19	13	15	13
ペースメーカー電池交換	3	4	5	3	7
カテーテルアブレーション	10	2	44	54	67
心エコー検査数	3694	3775	3962	4321	4437
トレッドミル	24	16	20	17	13
ホルター心電図	188	151	210	236	194
冠動脈造影CT検査数	103	134	121	123	116
下肢動脈造影CT検査数	22	17	15	23	14

◆消化器内科

【部 署 概 要】

当院の消化器内科は、内視鏡センター、消化器センターに所属し、指導医・専門医・認定医資格を持つスタッフ医師と後期研修医(レジデント)で構成されており、消化器疾患(咽頭・食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・肝・胆・膵)を緊急例から慢性疾患・癌治療まで幅広く診療しております。内視鏡検査・治療は、スクリーニング検査から高度な専門治療まで年間約 12,000 件を行っています。

【診 療・体 制】

消化管: 2025 年度は上部消化管内視鏡検査を約 7000 件、下部消化管内視鏡検査を約 3000 件を行っています。当院は、胃食道逆流症患者に対する内視鏡治療である逆流防止粘膜切除術(ARMS)を行っている全国でも数少ない病院であるため、症例数が増加しており、近畿圏以外からも多くの患者が来ています。咽頭を含む消化管早期癌(咽頭・食道・胃・十二指腸・大腸)に対する拡大 NBI 内視鏡診断・ESD を大きな偶発症なく安全に行っています。また潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患に対する治療を生物学的製剤, 分子標的治療薬, CAP 療法などの専門的治療も含め行っております。小腸内視鏡(カプセル内視鏡およびバルーン内視鏡)も行っており、全消化管を精密検査できる環境が整っています。

肝: 一般的な肝疾患診療に加え超音波用造影剤(ソナゾイド)を用いた造影エコーによる肝臓癌の精査も施行しております。ウイルス性慢性肝炎に対する抗ウイルス療法をはじめ、肝臓癌に対するラジオ波焼灼術(RFA)や肝動脈化学塞栓術(TACE)を行っております。また肝硬変患者に生じる食道胃静脈瘤に対する内視鏡的静脈瘤結紮術/硬化療法(EVL/EIS), 胃静脈瘤に対するバルーン閉塞下逆行性経静脈塞栓術(BRTO)や、腹水患者に対する腹水濾過濃縮還元療法(CART), 腹腔-静脈シャント(Denver シャント)も行っています。また 2025 年度は新たに超音波内視鏡ガイド下胃静脈瘤コイル留置+硬化療法も実施しました。

胆膵: 2025 年度は総胆管結石・慢性膵炎・胆管癌・膵癌などに対する ERCP を年間 600 件以上行っています。同疾患や膵嚢胞性病変に対するコンバックス型超音波内視鏡(EUS)による観察や EUS-TA(EUS ガイド下穿刺吸引細胞診-組織診)や EUS-BD(EUS ガイド下胆道ドレナージ)等の先進的な医療も行っております。さらに、2025 年度は、手術不能患者の胆嚢炎に対する、HOT-AXIOS(ダンベル型動続ステント)を用いた EUS-GBD(超音波内視鏡下胆嚢ドレナージ術)も開始しました。また SpyGlass というディスプレイ細径胆道鏡と EHL(電気水圧衝撃波結石破碎術)を用いた、通常の方法では除去困難な内視鏡的胆管結石除去も積極的に行っております。SpyGlass は胆管癌・膵癌・原因不明の胆膵管狭窄の診断にも有用です。そして、近年は、TANE-P プロジェクトと称し、早期膵癌発見のための他の医療機関や地域住民への啓蒙活動も行っており、膵癌の手術症例が増加しています。

消化器内視鏡: 2025 年度は約 12,000 件の消化器内視鏡検査・治療を行いました。平素より通常のスクリーニング検査をはじめ、上記の通り内視鏡治療として食道・胃・大腸の早期癌に対する ESD、GERD に対する ARMS、食道胃静脈瘤に対する EVL・EIS、胆膵疾患に対する ERCP・EUS・EUS-FNA・EUS-BD・SpyGlass、消化管・胆管メタリックステント留置術などの専門的かつ高度な治療を幅広く行っております。

緊急体制: 24 時間 365 日、緊急内視鏡ホットラインで救急隊や近隣の病院・医院と直接連携しており、消化管出血や消化管異物、S 状結腸軸捻転、急性胆管炎などの緊急内視鏡を要するような疾患に数多く対応しております。急性期病院であり「断らない救急」をモットーにしている当院の性格上、

吐下血/腹痛を主訴とした消化管出血/急性腹症などの緊急疾患が救急車で多く運ばれてきます。特に消化管出血の救急搬送は大阪市で No.1 です。緊急腹部疾患に対して、当院の特長である科同士の連携の良さを活かし、消化器内科/消化器外科/急性腹症科が連携してチーム医療を行い、緊急処置/内視鏡治療/手術などを行っています。

【特 色・トピックス】

多数の専門外来(低侵襲がん内視鏡治療外来、胆膵内視鏡外来、潰瘍性大腸炎外来、レディース内視鏡外来、胃食道逆流症外来)を開設しており、幅広い患者様に高度に専門化した診療を提供しております。

苦痛のない内視鏡検査を目指しており、上部は嘔吐反射の少ない経鼻内視鏡による胃カメラや鎮静剤と鎮痛剤を併用した検査を行っています。大腸も鎮静剤と鎮痛剤の併用、UPD、さらに「浸水法」と高い内視鏡操作技術による無痛の大腸内視鏡検査を提供しています。

消化管早期癌に力を入れており、NBI や色素を併用した拡大内視鏡検査や超音波内視鏡(EUS)を用いた精度の高い診断から、食道・胃・大腸のみならず十二指腸の病変も含め高度な技術を要するESD による内視鏡的早期癌切除を重篤な偶発症なく安全に行っております。

胃食道逆流症(GERD)に対する新しい内視鏡治療(ARMS)を 2023 年度より始めました。

PPI/PCAB 抵抗性あるいは依存性の GERD 患者さんの弛んだ食道胃接合部を締める治療で逆流を改善させます。内視鏡治療であるため体表にメスを入れることなく低侵襲に治療ができます。膵癌の早期発見に注力しており、2023 年度からは TANE-P プロジェクトと称し、大阪市西エリアの膵癌予後を向上すべく様々な取り組みを行っています。(市民や医療従事者・機関への啓蒙活動、膵癌ハイリスクチェックリストやポスターの配布など)

潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患に対する治療を生物学的製剤、分子標的治療薬、CAP 療法などの専門的治療も含め行っております。

胆膵疾患に対する検査・治療(ERCP 関連手技)も得意分野であり、緊急胆管ドレナージ・総胆管結石除去・膵管内結石治療・胆管癌/膵癌に対する精査および減黄治療を中心に行っております。

SpyGlass と呼ばれるわずか径 3mm のディスプレイ胆道鏡も導入しているため、通常内視鏡的に除去することが困難な胆管結石も SpyGlass + EHL(電気水圧衝撃波)を用いて治療できるようになっております。胆管癌や膵癌の早期発見や精密診断の目的にコンベックス EUS を用いた観察や EUS-FNA(超音波内視鏡ガイド下-穿刺細胞診・組織診)も行っており、また interventional EUS として EUS-BD(超音波内視鏡ガイド下胆道ドレナージ:消化管-胆道瘻孔形成術)も行っております。

上下部内視鏡検査でも出血源を同定できない消化管出血やクローン病などに対する小腸カプセル内視鏡や小腸バルーン内視鏡検査・治療も行っております。また同内視鏡は消化器手術後の特異な解剖(Roux en-Y 法再建、Bilroth-II 法再建、膵頭十二指腸切除後)を有する患者様に対する従来困難であった ERCP を可能にし、以前は手術が必要であった患者様に低侵襲な治療を提供できております。

外来においては初診時には可能な限りその日に診断できるよう心がけています。また待機の検査日程も患者様のご都合を最大限考慮し短期間で診断までつけられるよう意識しております。治療については病状に対してだけでなく、QOL(クオリティ・オブ・ライフ)を考慮し治療方法を決定しております。

消化器内科・外科合同カンファレンスや合同回診など、消化器外科との連携が良いことも大きな特徴の一つであり、診断から治療まで常に最善の医療を最善のタイミングで患者様に提供できるよう多角的に診療を行っています。

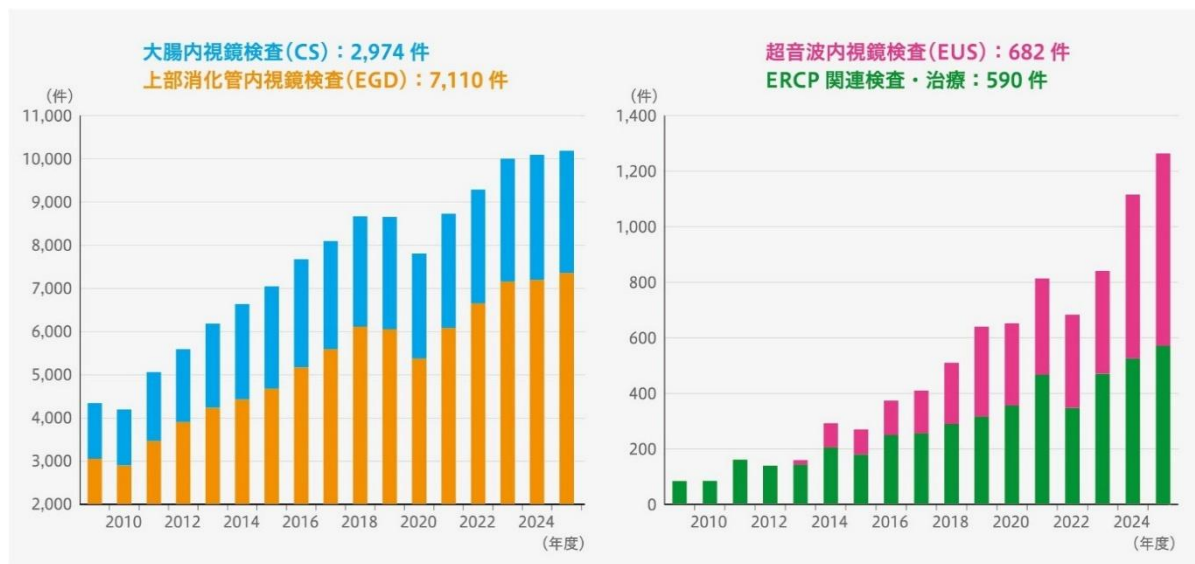
働き盛りの若い医師から経験豊富なベテランまでがバランスよく在籍していることも、当院の特徴であり、層の厚い医療が提供できています。さらに豊富なマンパワーを活かし、近年は消化器内科医が不足する沖縄県の離島(石垣島や宮古島)に医療応援を行っています。

臨床だけではなく、若手の教育、研究や発表などの学術活動にも力を入れていることも長所と考えています。

＜次年度方針・将来展望・目的・目標＞

当院は以前より上下部消化管内視鏡検査において患者様の苦痛を最小限にするべく努力をして参りました。一方で消化管癌に対する ESD や、胆膵領域における超音波内視鏡や胆道鏡 (SpyGlass) を用いた高度な検査・治療にも力を入れてきました。2022 年度は癌研有明病院へ国内留学し消化管癌診療を学んだ医師が消化器内科チームへ戻り、2023 年度からは国立がんセンター中央病院へ国内留学していた胆膵を専門とする医師も戻り、さらに 2025 年度からは国立がんセンター東病院と NTT 東日本関東病院で研鑽を積んだ消化管を専門とする医師が戻り、消化器内科の診療能力はより一層強化されました。従来から力を入れている ESD や ERCP, EUS に加え、膵癌の早期発見、ARMS、IBD に力を入れてまいります。また、来年度は内視鏡診療を学びたい外国人修練医を 5 人受け入れる予定であり、内視鏡センターの国際化も進んでいきます。今後も、消化器外科・消化器内科・放射線科・腫瘍内科・緩和ケア科が協力しながら、低侵襲・高 QOL な治療をベストのタイミングで患者様に提供し続けます。

【診 療・部署実績】



◆脳神経内科

【部 署 概 要】

脳卒中、てんかん、髄膜脳炎などの神経救急疾患を中心に、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症などの慢性疾患を含めて神経疾患全般にわたって診療を行っている。特に脳卒中症例は、24 時間 365 日体制で脳神経外科と共同で神経・脳卒中センターを運営しており、脳神経内科は主に虚血性脳卒中(脳梗塞、一過性脳虚血発作)の入院診療を担当している。リハビリテーション科・看護師や MSW などのコメディカル・多根脳神経リハビリテーション病院・多根第二病院と連携し、急性期だけでなく回復期リハビリテーションや慢性期まで含めた診療を行っている。一般外来は、完全予約制で、月曜日から金曜日まで行っており、他病院からの紹介や他科からの診察依頼に対しては適宜対応している。

【診 療・体 制】

【スタッフ一覧】

学術顧問:柳原 武彦
 脳神経内科部長:白石 翔一
 脳神経内科部長:吉田 智子
 脳神経内科副部長:田中 なつき
 脳神経内科医長:北村 絵未
 脳神経内科医長:江並 朋美
 脳神経内科医長:小玉 大地
 脳神経内科医員:國方 桃代
 脳神経内科医員:仲辻 有佑

【特 色・トピックス】

当科の入院症例は、脳梗塞などの脳血管障害、てんかん、片頭痛、めまいなどの機能性疾患、髄膜炎・脳炎などの感染性疾患といった神経救急疾患が大半を占めている。その中で、脳卒中診療は超急性期から回復期までの診療に携わっている。超急性期脳梗塞に対して、rt-PA 静注療法や血管内治療を多数行っている。状態が安定した後も、回復期リハビリテーションの適応がある症例を多根脳神経リハビリテーション病院で、療養型病院の適応がある症例は多根第二病院で対応できる為、脳卒中診療の全ての経過を網羅することができる。

【診 療・部署実績】

外来患者延数…5,882 人 入院患者延数…11,552 人

◆外 科

【部 署 概 要】

一般外来は、午前診 9:00～11:30(月曜日から金曜日)、午後診 13:00～15:00(月曜日、水曜日)で、日帰り手術センター外来(月曜日から金曜日)も行なっている。
 手術日は月～金曜日毎日であるが、救急病院であるため昼夜を問わず緊急手術に対応している。第2、第4土曜日午前に鼠径ヘルニアの日帰り手術を行なっている。また疾患別にグループを作り、幅広い知識の習得と最新の治療に対応している。

【診 療・体 制】

上部消化管(森、加藤)
 下部消化管(小川淳宏、小川稔、金、久戸瀬)
 肝胆膵(細田、松井)
 乳腺、内分泌(西)
 日帰り手術(丹羽、土屋)

【特 色・トピックス】

2025年度の異動は3月に林田一真、今中孝が転出し、7月に松井佑起医長が着任した。また、河本知樹が専攻医として加わった。本年度も消化器外科手術件数は1155件と大阪大学消化器外科関連施設43施設のなかで5番目に手術症例数の多い施設となった。なかでも鏡視下手術の件数が年間693件と非常に多いのも特長である。
 急性腹症患者については他施設にない急性腹症科を設置して、経験豊富なスタッフが365日24

時間体制で緊急手術を行っている。救急隊との間に急性腹症ホットラインからを設け、大阪市全域より急性腹症患者の受け入れを行っている。鏡視下手術に熟練したスタッフが多く、夜間の緊急でも積極的に鏡視下手術を行っている。

大阪府がん診療拠点病院として、悪性腫瘍の手術も多数行っている。胃癌、大腸癌については腹腔鏡下手術を積極的にとりいれている。さらに胃癌大腸癌ではロボット支援下手術も多数行なっている。日帰り手術については「日帰り手術センター」の頁を参照していただき。

また、手術だけでなく、教育、研究にも力を入れており、1年を通して多数の初期研修医、後期研修医が当科で研修を行っている。また、学会発表、論文執筆もスタッフ、後期研修医から初期研修医に至るまで多数行っている。

民間病院としては希な、多数かつ専門性の高いスタッフが揃っており、今後も大阪市西部ブロックの基幹病院として、より多くの症例を受け入れていきたい。

【診 療・部署実績】

分類	項目	症例数
A	消化器外科手術症例数	1155
A-1	そのうち全身麻酔による手術症例数	1035
A-2	そのうち全身麻酔以外による手術症例数	120
A-LAP	腹腔鏡(胸腔鏡)手術症例数(分類 A のうち、原疾患を問わず)	693
B	食道	4
B-1	食道癌(接合部癌扁平上皮癌含む)	2
B-1-2	胸部食道切除	2
B-1-2-LAP	胸腔鏡	2
B-3	食道裂孔ヘルニア	1
B-5	食道その他	1
C	胃・十二指腸(※十二指腸乳頭部癌は胆道癌へ)	64
C-1	胃癌	44
C-1-1	胃全摘	5
C-1-1-OPN	開腹	2
C-1-1-LAP	腹腔鏡	3
C-1-2	幽門側胃切除(PPG、分節切除含む)	25
C-1-2-OPN	開腹	3
C-1-2-LAP	腹腔鏡	14
C-1-2-ROBOT	ロボット	8
C-1-3	噴門側胃切除	3
C-1-3-OPN	開腹	2

C-1-3-LAP	腹腔鏡	1
C-1-5	その他胃癌手術(バイパス／審査腹腔鏡など、開腹／腹腔鏡を問わず)	11
C-2	十二指腸癌(開腹／腹腔鏡を問わず)	2
C-3	胃・十二指腸 GIST(開腹／腹腔鏡を問わず)	8
C-5	胃・十二指腸その他(潰瘍／病的肥満／胃瘻など、開腹／腹腔鏡を問わず)	10
D	小腸・大腸・肛門	414
D-1	結腸癌	63
D-1-1	切除術	60
D-1-1-OPN	開腹	5
D-1-1-LAP	腹腔鏡(RPS を除く)	45
D-1-1-ROBOT	ロボット	10
D-1-2	非切除(人工肛門造設・閉鎖、バイパスなど)	3
D-2	直腸癌(肛門癌含む)	64
D-2-1	切除術(肛門温存)	42
D-2-1-OPN	開腹	2
D-2-1-LAP	腹腔鏡(RPS を除く)	10
D-2-1-ROBOT	ロボット	30
D-2-2	切断術(肛門非温存)	1
D-2-2-ROBOT	ロボット	1
D-2-4	非切除(人工肛門造設・閉鎖、バイパスなど)	21
D-6	小腸 GIST(開腹／腹腔鏡を問わず)	1
D-8	虫垂炎(開腹／腹腔鏡を問わず)	131
D-8-OPN	開腹	2
D-8-LAP	腹腔鏡(単孔式、RPS を含む)	129
D-9	イレウス(開腹／腹腔鏡を問わず)	53
D-11	クローン病(開腹／腹腔鏡を問わず)	1
D-11-1	切除術	1
D-11-1-OPN	開腹	1
D-12	痔核	68
D-13	痔瘻	2
D-14	結腸その他(開腹／腹腔鏡を問わず)	14

D-15	直腸その他(開腹／腹腔鏡を問わず)	12
D-16	肛門その他(開腹／腹腔鏡を問わず)	2
D-17	小腸その他(開腹／腹腔鏡を問わず)	3
E	肝・胆・膵	259
E-1	肝細胞癌	5
E-1-2	肝葉切除／肝三区域切除	1
E-1-2-OPN	開腹	1
E-1-3	肝区域切除	3
E-1-3-OPN	開腹	2
E-1-3-LAP	腹腔鏡	1
E-1-4	肝垂区域切除	1
E-1-4-OPN	開腹	1
E-2	胆管細胞癌	1
E-2-2	肝葉切除／肝三区域切除	1
E-2-2-OPN	開腹	1
E-3	転移性肝癌	5
E-3-1	肝切除と膵頭十二指腸切除の併施(HPD)	0
E-3-3	肝区域切除	1
E-3-3-OPN	開腹	1
E-3-4	肝垂区域切除	1
E-3-4-OPN	開腹	1
E-3-5	肝部分切除	3
E-3-5-OPN	開腹	1
E-3-5-LAP	腹腔鏡	2
E-4	胆嚢癌	3
E-4-5	肝部分切除(拡大胆摘を含む)	2
E-4-5-OPN	開腹	2
E-4-9	非切除(バイパス・審査腹腔鏡など)	1
E-6	遠位胆管癌(中下部胆管癌)	2
E-6-1	膵頭十二指腸切除	2
E-6-1-OPN	開腹	2
E-7	十二指腸乳頭部癌	4
E-7-1	膵頭十二指腸切除	4

E-7-1-OPN	開腹	4
E-8	膵管癌	13
E-8-1	膵頭十二指腸切除	5
E-8-1-OPN	開腹	5
E-8-2	尾側膵切除	6
E-8-2-OPN	開腹	6
E-8-4	非切除(バイパス・審査腹腔鏡など)	2
E-10	膵 IPMN	3
E-10-1	膵頭十二指腸切除	3
E-10-1-OPN	開腹	3
E-11	胆石症・胆嚢炎・胆嚢ポリープなど	219
E-11-OPN	開腹胆石症手術	2
E-11-LAP	腹腔鏡下胆石症手術(単孔式、RPS を含む)	217
E-13	総胆管結石症	1
E-13-OPN	開腹	1
E-14	肝胆膵その他	3
E-14-LAP	腹腔鏡	3
E-LOB	肝葉切除／肝三区域切除(原疾患を問わず)	2
E-SEG	肝区域切除(原疾患を問わず)	4
E-SUB	肝垂区域切除(原疾患を問わず)	2
E-PD	膵頭十二指腸切除(原疾患を問わず)	15
E-DP	尾側膵切除(原疾患を問わず)	7
G	ヘルニア(鼠径ヘルニア、大腿ヘルニアなど)	297
G-OPN	開腹ヘルニア根治術	195
G-LAP	腹腔鏡下ヘルニア根治術	102
H	腹膜炎・その他	115
X	他科手術	2

◆緩和医療科

【部 署 概 要】

緩和医療科は悪性疾患による身体的・精神的な苦痛を和らげ、患者と家族の生活の質(QOL)を向上させることを目標とし、治療の初期段階からさまざまなケアをチームで提供します。

1)専門外来 2)一般病棟(がんサポートチーム:緩和ケアチーム) 3)緩和ケア病棟で診療に当たります。

さらに、在宅医と連携することで切れ目のない緩和ケアを提供します。

【診 療・体 制】

1)外来:緩和ケア病棟面談(月曜日;午前・午後、火曜日;午前、木曜日;午前・午後)、再診ならびに院内初診(月曜;午前、金曜日;午前・午後) 入院患者は随時対応します。

2)一般病棟:がんサポートチーム(緩和ケアチーム)

身体症状担当:石丸、和田

精神症状担当:柄池

看護師:3名、薬剤師:2名

栄養士:1名

3)緩和ケア病棟:20床

【特 色・トピックス】

緩和医療科は石丸、和田と精神科柄池医師とともに一般病棟および緩和ケア病棟の患者に対応しています。

和田は放射線治療専門医でもあり、2024年8月から放射線治療科と連携して「放射線治療ホットライン」を立ち上げ、緩和的放射線照射が必要な患者を積極的に受け入れています。

また、大阪府がん診療拠点病院として、年1回「緩和ケア研修会(PEACE プロジェクト)」を開催して医療従事者への教育・普及に力を注いでいます。

緩和ケア病棟を持つ急性期病院が地域において果たすべき役割を院内で共有し、救急科・外科・消化器内科をはじめとする院内各診療科と協力体制を構築しています。これにより、がん進行期・終末期の患者に対し、地域の「セーフティネット」として切れ目のない緩和ケアを提供しています。

【診 療・部署実績】

2025年度 緩和ケア病棟 診療実績

	延べ患者数	実入院患者	平均在院日数	稼働率
4月	492	24	17.9	87.2%
5月	448	31	15.7	76.5%
6月	489	35	12.7	88.5%
7月	525	23	16.7	91.1%
8月	501	28	15.9	86.5%
9月	530	40	13.8	94.5%
10月	541	34	13.5	94.7%
11月	500	30	15.6	89.0%
12月	474	29	13.9	82.7%
1月	484	33	14.7	83.4%
2月	462	32	13.2	89.3%
3月	394	34	10.8	69.8%

◆整形外科

【部 署 概 要】

整形外科では骨折や靱帯損傷など一般的な外傷、スポーツ愛好家からハイレベルアスリートまで幅広いスポーツ障害、年齢を重ねるごとに痛みが出てくる腰や関節の変性疾患、骨粗鬆症等に対して治療を行っています。

【診 療・体 制】

〈 外 来 〉

2025年度は1ヶ月平均886名、1日平均43.8名でありました。

受付時間は午前10時までとなっております。書類記入補助などの業務も加わって、外来の待ち時間が比較的短くなりました。

〈 入 院 〉

2025年度は1日平均28.4名であり、平均在院日数は14.2日でありました。

予定入院の増加や、MSWの協力により比較的短期の入院が多くなっています。現状を継続したいと思います。

〈 手 術 〉

2025年度は595件の手術件数があり、1ヶ月平均49.5件となりました。手術内容としては下記の通りの内訳となります。治療内容としてはあらゆる外傷に加え、スポーツや関節鏡手術が増えたものになっています。今後も学会・研究会等の発表、投稿に加え十分な知識・経験に基づく医療を発展させたいと考えています。

【特 色・トピックス】

専門外来として肩関節・肘関節の障害、肩・肘スポーツ障害を診療する『肩・肘・スポーツ外来』と、スポーツに関わる障害を体幹・下肢も含めて診療する『スポーツ外来』『人工関節(股・膝)外来』を行っています

【診 療・部署実績】

2025年手術実績

手術総数	脊椎	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児	腫瘍	その他
595	35	43	22	434	0	51	9	1	0

◆脳神経外科

【部 署 概 要】

脳神経外科疾患には脳血管障害(脳卒中)、脳腫瘍、頭部外傷(神経外傷)、脊髄疾患、機能的疾患(顔面痙攣、三叉神経痛など)、小児脳神経外科疾患があるが、当科はほぼ全ての領域を網羅し診療を行っている。小児脳神経外科に対しては大阪医科薬科大学と連携し外来診療を行っている。

なかでも神経系救急疾患の多くを占める脳卒中において出血性血管障害は脳神経外科が、閉塞性血管障害は脳神経内科が主に診療を行っており、常時両科で情報を共有しつつ手術適応症例に対しては24時間体制で、速やかに脳神経外科で対応している

【診 療・体 制】

常勤専門医 5 名、非常勤専門医 4 名の専門医合計 9 名で診療に携わっている。

救急搬入患者は原則救急診療科に初期診療を担って頂き、神経系疾患においては直ちに神経センターへ連携され、脳神経内科と協力し 365 日 24 時間体制での神経疾患患者の受け入れを実現している。また脳卒中ホットラインによる救急隊からの直接連絡受け入れ体制も敷いており、診断治療までの可能な限りの時間短縮を目指している。

外来診療は平日毎日行い、午前は月・火・木曜日を 2 診制、水・金曜日を 1 診制、午後は月・木曜日を 2 診制、他は 1 診制で行っている。原則予約患者を優先的に診療し、予約外患者も随時受け入れ診療を行っている。

入院診療は一人主治医制で行っているが、カンファレンスや全体回診にて各医員は全患者の状態把握に努め、治療方針や手術適応に関しては十分なカンファレンスのもとに決定している。

手術は火・金曜日の手術室枠を中心に予定手術を行っているが、緊急手術に対しては麻酔科、手術室および他診療科の協力のもと 24 時間体制で随時行っている。

【特 色・トピックス】

A)脳血管障害手術について

1)脳卒中センターを開設し、緊急手術を含めた 24 時間体制を敷いている。

2)患者安全を最優先し、病態に応じ開頭術などの外科的直達術、脳血管内手術、神経内視鏡手術などの選択が可能。

3)術中ナビゲーションシステム、MEP、SEP、ABR などの神経モニタリング、ICG 蛍光診断、低体温麻酔など脳保護において各種術中支援を活用している。

B)脳血管内治療について

1)大阪医科薬科大学脳神経外科・脳血管内治療科と連携し、応援医、指導医を招聘し手術を行う事で安全性を高めている。

2)頸動脈病変では、安全性を最優先し病態に応じ頸動脈内膜剥離術(CEA)、頸動脈ステント留置術(CAS)の選択が可能。

3)脳血管内治療後に開頭術が必要となった場合においても 24 時間対応が可能。

C)脳腫瘍手術について

1)臨床工学科と連携し画像支援としてナビゲーションシステム(BRAINLAB Elements®)、神経モニタリング(MEP、SEP、VEP、EMG、ABR、AMR など)、蛍光診断(5-ALA、fluorecein、ICG)などを駆使し、安全性の高い脳腫瘍手術を提供している。当院では画像支援装置、手術顕微鏡、手術室マルチ・モニター、高精度放射線治療システム等がネットワークで統合されており、術前の手術計画作成から実際の顕微鏡および内視鏡手術、術後の放射線治療計画、放射線照射までがひとつに統合された治療がシステム上で行われ、症例毎に機能温存と根治性を両立させたテイラーメイド治療が可能となっている。

2)脳腫瘍に対する針生検や、深部脳膿瘍に対する排膿術など定位的手法を要する手術に対しては、BRAINLAB VarioGuide™を用いた高精度の定位手術が可能である。

3)下垂体腺腫などのトルコ鞍部腫瘍および経鼻アプローチが可能な下垂体近傍の頭蓋底手術に対しては、2005 年から顕微鏡に内視鏡を併用した手術を開始し、2008 年からは顕微鏡を用いない完全内視鏡手術に移行した。現在は手術及び周術期の管理も含めて耳鼻咽喉科と協同し、硬性内視鏡による経鼻的内視鏡下経蝶形骨洞手術(endoscopic endonasal TSS:eTSS)を行っている。

4)術後は疾患に応じた適切な後療法(放射線化学療法)の選択が可能である。化学療法においては脳悪性リンパ腫など全身アプローチを要する疾患の場合は腫瘍内科と連携して行い、照射治療においては放射線治療科と連携し高精度放射線治療装置(BRAINLAB 社、Novalis Tx)を用いた定位放射線療法(SRS、SRT)、強度変調放射線治療(IMRT)、画像誘導放射線治療(IGRT)など、最新の放射線照射治療を提供している。

D)頭部外傷手術について

頭部外傷全般に対応し、特に頭蓋内圧亢進を来す重症頭部外傷例においては外減圧処置のうえ脳圧計(ICP sensor)を留置し、厳密に脳圧コントロールを行って術後管理をしている。

近年穿頭を要する超緊急症例に対しては、救急外来外傷センターでの穿頭術対応も行っている。

【診 療・部署実績】

2025 年度診療実績(脳神経外科)

総外来患者数・・・6,525 人／年度 年間入院患者数・・・7,722 人／年度

2025 年 脳神経外科 全手術件数内訳)

脳神経外科的手術症例数 (2025 年 1～12 月)		
脳神経外科的手術の総数		216
脳腫瘍	摘出術	7
	生検術 (開頭術)	1
	生検術 (定位手術)	1
	経蝶形骨洞手術	2
	広範囲頭蓋底腫瘍切除・再建術	4
	その他	0
脳血管障害	破裂動脈瘤	11
	未破裂動脈瘤	3
	脳動静脈奇形	2
	頸動脈内膜剥離術	2
	バイパス手術	3
	高血圧性脳内出血 (開頭血腫除去術)	6
	高血圧性脳内出血 (定位手術)	0

	その他	4
外傷	急性硬膜外血腫	1
	急性硬膜下血腫	4
	減圧開頭術	1
	慢性硬膜下血腫	52
	その他	2
奇形	頭蓋・脳	0
	脊髄・脊椎	0
	その他	0
水頭症	脳室シャント術	10
	内視鏡手術	0
	その他	3
脊椎・脊髄	腫瘍	2
	動静脈奇形	0
	変性疾患（変形性脊椎症）	7
	変性疾患（椎間板ヘルニア）	18
	変性疾患（後縦靱帯骨化症）	2
	脊髄空洞症	0
	その他	3
機能的手術	てんかん	0
	不随意運動・頑痛症（刺激術）	0
	不随意運動・頑痛症（破壊術）	0
	脳神経減圧術	4
	その他	0

血管内手術	動脈瘤塞栓術（破裂動脈瘤）	5
	動脈瘤塞栓術（未破裂動脈瘤）	4
	動静脈奇形（脳）	1
	動静脈奇形（脊髄）	0
	閉塞性脳血管障害の総数	44
	（上記のうちステント使用例）	6
	その他	2
その他	上記の分類すべてに当てはまらない症例	5

◆小児科

【部 署 概 要】

新生児から中学生までの一般小児疾患を対象としています。発熱、感染症などの急性疾患から、気管支喘息、食物アレルギーなどアレルギー疾患、起立性調節障害、夜尿、便秘、低身長など慢性疾患、育児相談、予防接種、乳幼児検診などを診療しています。入院診療は行っていないが、小児の急性期・慢性期疾患に幅広く対応しています。小学生以上の児においては、外来で成長ホルモンの負荷試験を行っています。入院や、専門医の診療が必要な症例に関しては、地域医療連携室を通じて、専門の医療機関に紹介いたします

【診 療・体 制】

常勤の小児科医 1 名体制で、基本的には月～水曜日・金曜日の午前・午後（水曜午後は完全予約制の予防接種外来のみ）、常勤医が対応しています。

【特 色・トピックス】

総合病院の小児科として、院内各科と連携して、診療に当たっております。眼科病院の術前検査や、他科の乳幼児の血液検査などは、当科で処置を行なっています。
 大阪市予防接種委託施設であり、定期接種及び、任意接種を行なっています。2022 年度からは BCG 接種も行っています。また、成人の麻疹・風疹などの抗体検査、及び肺炎球菌ワクチン以外の成人の予防接種も受け付けています。
 大阪市の感染症動向調査小児科定点医療機関として、毎週、症例数を報告しています。
 病院委託になっている 1 歳児健診（10 カ月健診）も行っています（要予約）。

【診 療・部署実績】

外来患者数(延べ)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
時間内	新来	19	25	16	23	26	26	15	19	19	12	22	21	243
	再来	32	34	30	27	37	34	35	42	23	28	36	28	386
	合計	51	59	46	50	63	60	50	61	42	40	58	49	629

主な予防接種実績(延べ)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
五種混合	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
四種混合	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
二種混合	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
ビフ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
肺炎球菌	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
乾燥弱毒生麻疹風疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
日本脳炎	2	0	4	2	2	1	3	1	1	1	0	1	18
乾燥弱毒性おたふく	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3
乾燥弱毒生水痘	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3
ポリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B型肝炎	2	2	0	0	2	0	2	0	1	0	0	0	9
ロタ	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
成長ホルモン	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
合計	9	6	9	3	5	2	7	2	5	2	1	5	56

◆泌尿器科

【部 署 概 要】

スタッフは細川幸成、伊丹祥隆、飯田孝太、林百合子および12月までは成田光輔、1月から三枝剛輔が異動となり、5名の常勤医で構成している。

【診 療・体 制】

外来診療は、月曜日は2診体制、火曜日から金曜日の午前診は3診体制で、午後診は月・火・水・木・金曜日は3診体制で行っている。
手術日は月曜日の全日、木曜日の午後、金曜日の午前に行っている。
体外衝撃波結石破碎術(以下、ESWL)は火、水および木曜日に全日で行っている。

【特 色・トピックス】

救急病院である性格上、早急な対応が迫られることが少なくない。そのため、診断から治療までが早いことが当院の特徴である。
また、日本泌尿器科学会 専門医教育施設であり、奈良県立医科大学 泌尿器科学教室の専門医取得までの後期研修および、専門医がさらに指導医を取得するまでの教育拠点施設としての役割を担っている。

【診 療・部署実績】

本年度の外来患者数は12685名(昨年13473名)、新患は666名(昨年898名)および紹介患者275名(昨年344名)であった。
本年度の入院患者数は898名(昨年878名)、平均在院日数は6.4日(昨年7.2日)であった。
手術件数は524件(昨年502件)、体外衝撃波結石破碎術(以下、ESWL)は新規患者33件(昨年47件)であった。
論文は3編(内筆頭著者2件)であった。

◆皮膚科

【部 署 概 要】

一般外来は平日の午前・午後で行っている。
 他科入院中の患者を対象とした病棟対診
 手術は局所麻酔でも行える小手術を行っている。
 入院加療については、全身状態が安定していて早期退院が見込める症例を対象に担当させて頂いている。

【診 療・体 制】

部長:中井大介
 その他非常勤医師(火曜午前、金曜午前)

【特 色・トピックス】

当科では皮膚科一般疾患を幅広く扱っています。
 「皮膚は内臓の鏡」とも言われ、皮膚の状態から糖尿病を始めとした内科疾患が見つかることもまれではありません。
 お肌にできたものは何でもご相談ください。
 皮膚科全般(アレルギー疾患・皮膚感染症・熱傷・皮膚腫瘍など)に対応しています。
 症状のみでは診断が困難な症例に対しては、皮膚生検を施行し、次の治療を進めています。
 生物学的製剤承認施設であり、乾癬、化膿性汗腺炎、掌蹠膿疱症などに対する注射治療にも対応しております。

【診 療・部署実績】

年間外来延べ患者数: 7,305 名 初診患者数:1,268 名 紹介患者数:323 名
 入院実人数:67 名 平均在院日数:6.2 日
 皮膚生検:206 件
 手術(皮膚腫瘍切除術:125 件 皮膚悪性腫瘍切除術:11 件 皮膚切開術:121 件)

◆婦人科

【部 署 概 要】

主に婦人科良性疾患を中心に幅広い疾患に対応しています。外来診療では子宮がん検診をはじめとする一般婦人科検診、月経異常や月経困難症、性感染症、更年期障害、子宮脱(骨盤臓器脱疾患)などを中心に診療を行っています。入院による手術治療も行っており、手術対象は子宮筋腫や良性卵巣腫瘍(卵巣のう腫)、骨盤臓器脱といった良性疾患を中心に手術を実施しています。

【診 療・体 制】

常勤の婦人科医(女性医師)(部長:塚原稚香子、副部長:中川美生)2 名体制で診療を行っています。
 一般外来は月曜～金曜の午前・午後(火曜日午後を除く)、専門外来は月・水・金曜に設けています。
 専門外来の内訳として月曜日午後:ウロギネ外来、水曜午後:思春期外来、水曜午前・金曜午後:更年期外来、木曜午後:HPV ワクチン外来を行っています。一般外来でも全ての疾患に対応可能ですが、専門外来を設置することで患者様に更に受診しやすい環境を提供しております。また手術は主に火曜日・木曜日を中心に行っています。腔式手術、開腹手術、腹腔鏡下手術、子宮鏡手術など多くの術

式が対応可能です。婦人科悪性疾患に対する治療は行っておりませんが、悪性疾患を疑う場合は積極的に精査を行い、原発不明癌の場合は検査目的の審査腹腔鏡手術も行っております。診断させていただいた上で適切な医療機関へ紹介させていただきますので、安心して受診していただくことができます。

【特 色・トピックス】

2024 年 3 月までは外来診察のみの診療体制でしたが、2024 年 4 月より外来診察の枠を広げ、手術治療も可能な診療科となりました。外来は一般外来の拡大のみならず専門外来を設置しております。更年期外来では一般総合病院ではあまり受けることができないプラセンタ治療(保険適応)も行っております。手術は多くの術式による手術が可能であり、腹腔鏡下手術は婦人科内視鏡技術認定医が手術を行います。また、大阪市内の総合病院ウロギネセンターにて骨盤臓器脱の手術を牽引してきた医師による骨盤臓器脱手術(子宮脱など)を受けることが可能です。骨盤臓器脱疾患は数多くの術式がありますが、当院では全ての術式が対応可能であり、患者様一人一人の症状や生活環境に合わせた治療内容を提供することが可能となっています。また、子宮頸部円錐切除術や子宮鏡手術といった小手術は一泊二日の短期入院で実施しておりますので、他医療機関と比較して短い入院期間での治療が可能となっています。

【診 療・部署実績】

2025 年度の外来患者数は 2158 名(昨年度 1717 名)。そのうち新患は 786 名(昨年度 291 名)、紹介患者は 115 名(昨年度 99 名)でした。手術件数は 42 件、入院患者数は 270 名。

◆耳鼻咽喉科

【部 署 概 要】

当院耳鼻咽喉科で行っている診療に以下のようなものがあります。

1. 上気道炎、めまい、感音難聴、顔面神経麻痺、鼻出血など、耳鼻咽喉科急性疾患に対する幅広い治療。
2. 保存的治療に抵抗する副鼻腔炎、真菌性副鼻腔炎、好酸球性副鼻腔炎に対する手術治療。
3. 薬物治療に抵抗するアレルギー性鼻炎、鼻中隔彎曲矯正に対する手術治療。
3. 長期の薬物治療、生活指導が必要なメニエール病に対しての近年認可された中耳加圧療法を含めた治療
4. 良性発作性めまい症に対する臨床研究を含めた運動療法治療。
5. 難治性の滲出性中耳炎に対する鼓膜チューブ留置、アデノイド切除手術。
6. 嚥下障害に対して嚥下内視鏡検査による原因診断、また難治性の嚥下障害には誤嚥防止手術の喉頭全摘手術。
7. 声帯ポリープ、浮腫性声帯に対する手術治療。
8. 喉頭全摘出術後でボイスプロステシスによるシャント発声を希望されている方に対するボイスプロステシス留置術と術後管理。

【診 療・体 制】

2025 年度前半は天津、平山、衣笠、弘中の 4 人、後半は天津、平山、衣笠の 3 人で診療にあたりました外来は毎日 2-3 人体制で行い、手術日などは大阪公立大学、大阪医科薬科大学からの非常勤医師に応援をいただいております、手術は水曜日全日に 1-3 件、金曜日午後に 1 件の手術を行いました。

上記部署概要に記したことを中心としながら、下垂体、傍鞍部病変に対する経鼻内視鏡手術では脳神経外科の先生方と、めまい疾患では脳神経内科の先生方と、咽喉頭疾患では消化器内科の先生方

と、変形性外鼻と鼻中隔彎曲症を合併している症例では形成外科の先生方と連携して診療を行っております。これからもきつこう会の一員として、他科、関連施設と連携しながら皆様のお役に立てればと考えております。

【特 色・トピックス】

耳鼻咽喉科医は大阪公立大学耳鼻咽喉科医局員から構成されています。当院は日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会の専門医教育施設で、大阪公立大学耳鼻咽喉科専門研修プログラムにおける連携施設でもあり、耳鼻咽喉科専門医取得までの研修施設でもあります。
日本気管食道科学会認定専門医研修施設、日本鼻科学会の鼻科手術認可研修施設でもあり、耳鼻咽喉科のサブスペシャリティの専門医資格の取得も可能です。
2025年度は平山が耳鼻咽喉科専門医を取得しました。

【診 療・部署実績】

治療部位・施術		
耳科手術	63	
鼓膜チューブ挿入術	19	
鼓膜切開術	24	
先天性耳瘻管摘出術	6	
外耳道形成術	1	
外耳道異物除去術	13	
鼻科手術	203	
内視鏡下鼻中隔手術1型(骨・軟骨手術)	42	
内視鏡下鼻腔手術1型(下鼻甲介手術)	73	
内視鏡下鼻中隔手術 3 型(前弯矯正)	2	
内視鏡下鼻中隔手術 4 型(外鼻形成)	1	
内視鏡下鼻・副鼻腔手術2型(副鼻腔単洞手術)	1	
内視鏡下鼻・副鼻腔手術3型(選択的(複数洞)副鼻腔手術)	27	
内視鏡下鼻・副鼻腔手術4型(汎副鼻腔手術)	37	
内視鏡下鼻・副鼻腔手術5型(拡大副鼻腔手術)	1	
術上顎洞的顎動脈結紮術	1	
下甲介粘膜レーザー焼灼術	7	

鼻副鼻腔腫瘍摘出術	3	
内視鏡下経鼻的腫瘍摘出術(下垂体腫瘍)	2	
経鼻腔翼突管神経切除術	2	
鼻骨骨折観血的手術(変形外鼻手術、外鼻形成含む)	4	
口腔咽喉頭手術	78	
扁桃摘出術	50	
アデノイド切除術	6	
喉頭腫瘍摘出術(直達鏡によるもの)	5	
喉頭蓋嚢腫摘出術	2	
舌腫瘍摘出術(その他のもの)	1	
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術	2	
下咽頭腫瘍摘出術(経口腔によるもの)	2	
咽頭異物摘出術(複雑なもの)	3	
扁桃周囲膿瘍切開術	6	
咽後膿瘍切開術	1	
頭頸部手術	11	
頭頸部腫瘍摘出術	1	
顎下腺腫瘍摘出術	1	
リンパ節摘出術、生検	3	
気管切開術	6	

※両側性の臓器(例.鼻副鼻腔)の手術は側数で示しています。

◆形成外科

【部 署 概 要】

形成外科は頭の前から足先に至る外表面に現れる疾患はほぼ対象としており、「こんなもので治療の対象になるのか」と驚かれることが多い科です。顔面であれば眼、鼻、耳、口すべてを対象とし、手足、胸、へそ、とにかく目に見えるものであればその変形や欠損を元の状態に近づけていくことを科の特徴としています。形成外科の疾患は基本的に外科的治療つまり手術を行い対応するものがほとんどです。手術というと怖がられる方も多いと思いますが、使う器機や針はデリケートなものが多く、細い針を使用したり、最小限の皮膚切開で手術を行うなど患者様の不安を少なくし、手術をすることで得られることが多い結果となるよう、笑顔のまま治療が終了するよう努力して日々の診療を行っております。体の表面のことであれば気軽に当科までご相談ください。

【診 療・体 制】

部長：若見 暁樹(わかみ さとき)

専門分野：顎顔面外科/眼形成/小児先天異常

資格・専門医・指導医等：大阪市立大学医学博士/大阪公立大学臨床教授/日本形成外科学会専門医・指導医/皮膚腫瘍外科指導専門医/小児形成外科分野指導医/乳房再建実施施設責任医師医員/乳房オンコプラスチックサージャリー専任医師/身体障害者福祉法第15条指定医(そしゃく機能障害)

医長：上野 真理恵(うえの まりえ)

専門分野：形成外科一般

資格・専門医・指導医等：日本形成外科学会専門専門医・指導医

医員：中桐由貴(なかぎりゆき)

専門分野：形成外科一般

医員：谷本華乃子(たにもとかのこ)

専門分野：形成外科一般

医員：森岡茉莉莉(もりおかまりり)

専門分野：形成外科一般

【特 色・トピックス】

2022年4月よりスタッフ5名体制で運営しています。スタッフが増員されたことで、幅広い領域の疾患に対応が可能となっております。眼科病院との連携も進み、眼瞼領域の手術が充実して参りました。

【診 療・部署実績】

	入院	外来	計
全身麻酔での手技数	186		186
腰麻・伝達麻酔での手技数	17	1	18
局所麻酔・その他の手技数	262	196	458
入院または全身麻酔の手技数計：465			
外来での腰麻・伝達麻酔、局麻・その他の手技数計：197			
合計係数：563.5			

疾患大分類手技数	入院			外来			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	68	5	19			6	98
先天異常	35		4			2	41
腫瘍	43		70		1	165	279
瘻痕・瘻痕拘縮・ケロイド	9		16			17	42
難治性潰瘍	18	6	34			2	60
炎症・変性疾患	4	6	13			2	25
美容（手術）	1						1
その他	6		106			2	114
Extra レーザー治療	2						2

◆歯 科

【部 署 概 要】

入院中の患者、他科受診中(周術期等)の患者、職員を対象とした診療を中心として行っており、他に近隣歯科医院や施設等より紹介のあった有病者に対する治療(抜歯等)を実施しています。

【診 療・体 制】

歯科部長:岡本美樹

非常勤歯科医師 2 名

歯科衛生士 4 名

月曜～金曜日 9:00～11:30、13:00～16:00

【特 色・トピックス】

- ・一般の歯科治療:齲蝕治療、補綴修復、自費治療、義歯の作製・調整等
- ・歯周病治療:歯周ポケット測定、歯石・着色除去、ブラッシング指導等
- ・抜歯等の外科処置:開業医等からの紹介
- ・有病者に対する歯科治療
- ・周術期の口腔機能管理:手術前後及び化学療法中、緩和ケア中の患者を対象に実施
- ・BP 製剤等投与前の口腔内のチェック・投与中の管理
- ・入院中患者に対する口腔ケア:病棟担当衛生士を配置
- ・マウスピースの作製:歯ぎしり・顎関節症用、手術用等
- ・NST 回診に参加
- ・インプラント治療

【診 療・部署実績】

受診患者総数(名)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
617	605	700	694	603	694	762	596	724	640	642	646	7923

◆麻酔科

【部 署 概 要】

2025 度は、前年度に引き続き常勤医 6 名と非常勤医 1 名で周術期管理をおこなった。総手術件数は 3189 件と前年度より減少した。

【診 療・体 制】

麻酔科部長:棚橋識生 厚労省許可麻酔科標榜医・日本麻酔科学会麻酔指導医
 専門医共通機構認定麻酔専門医
 副部長: 宋よんす 厚労省許可麻酔科標榜医・日本麻酔科学会麻酔認定医
 副部長: 坂口 豪 厚労省許可麻酔科標榜医・日本麻酔科学会麻酔指導医
 専門医共通機構認定麻酔専門医

副部長： 三馬 葵	厚労省許可麻酔科標榜医・日本麻酔科学会麻酔専門医 専門医共通機構認定麻酔専門医
副部長： 中川由紀子	厚労省許可麻酔科標榜医・日本麻酔科学会麻酔指導医 専門医共通機構認定麻酔専門医
医長： 柴田 梢	厚労省許可麻酔科標榜医・日本麻酔科学会麻酔専門医 専門医共通機構認定麻酔専門医
医員： 岡田俊樹	厚労省許可麻酔科標榜医・日本麻酔科学会麻酔指導医 専門医共通機構認定麻酔専門医

【特 色・トピックス】

【診 療・部署実績】

2025 年度は総手術件数 3189 件、そのうち麻酔科管理症例は 2650 件。全身麻酔件数 2151 件、脊麻・伝麻 447 件であった。緊急手術は 502 件であった。
手術時間最長は、脳外科の脳腫瘍に対する開頭摘出手術、手術時間は 31 時間 54 分で、麻酔時間は 36 時間 7 分であった。

◆放射線診断科

【部 署 概 要】

・総合病院の一般撮影・CT・MRI・RI・骨塩定量・マンモグラフィ・X線透視・血管造影(IVR)脳神経リハビリ病院の一般撮影を常勤放射線科医師 4 名と非常勤医師、診療放射線技師 24 名で担当している。
・夜間当直を1人体制とオンコール対応で行い、一般撮影・CT・MRI・心臓血管撮影・頭部及び腹部血管撮影・血管内手術・エックス線 TV 等の緊急検査にも対応している。

【診 療・体 制】

放射線診断部

部長：松尾 良一／日本医学放射線学会放射線診断専門医、日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医

部長：濱澤 良将／日本医学放射線学会放射線診断専門医、日本核医学会専門医、PET 核医学認定医、大阪市立大学医学部博士

副部長：谷口 明繁／日本医学放射線学会放射線診断専門医

副部長：池本 美奈子／日本医学放射線学会放射線診断専門医、日本医学放射線学会指導医、検診マンモグラフィ読影認定医

【特 色・トピックス】

マンモグラフィ関連

- ・マンモグラフィ検査は、女性診療放射線技師 8 名が担当するように体制を整えた。
- ・乳腺外科ができたことで撮影件数が増加した。
- ・多根クリニックの女性スタッフが休暇の際、総合病院放射線科からマンモ業務に行く体制した。

MRI 関連

- ・当直帯で救急の検査を行うことで、日勤帯の病棟検査待ちが減少した。
- ・当日至急をすべて受け入れて検査を行った。

- ・病棟の検査依頼は看護師と連携を密にし、検査時間を指定する事で全体の検査を効率よく行うことが出来た。
- ・検査内容を医師と検討して、1検査あたりの撮影時間を短縮させることが出来た。
- ・MRI 夜診検査業務を行うことにより外来検査待ちが減少した。

CT 関連

- ・単純・造影予約をオープンにした。
- ・予約枠に AM 枠、PM 枠を設けた。
- ・入院患者の CT 検査を1階救急用 CT で撮影する事にした。結果、3 階 CT 検査での待ち時間が減少した。
- ・入院患者当日撮影時間を始業前に決め、病棟への連絡を最小限にした。
- ・可能な限り当日依頼の造影 CT を受け入れた。

医療安全対策

- ・部署内にヒヤリ・ハットを更に周知徹底させ、報告書を提出する努力を行った。
- ・インシデントが発生した場合はカンファレンスシートを用いて、速やかに対策を検討して問題解決をはかりスタッフに周知した。
- ・放射線技師接遇規範を見直し周知徹底して患者様に接した。

業務改善

- ・造影剤同意書・問診表を更新した。
- ・定期的に看護師や他部署等と話し合いを行い、日常業務がスムーズに行えるようにする。
また問題発生時には看護部連絡会及び業務改善委員会等で早期に解決する。
- ・単純撮影業務において病棟患者の検査時間を指定する事で、全体の検査を効率よく行うことが出来た。
- ・手術室で毎日外科用イメージ業務を行うようにした。
- ・診療放射線技師の業務拡大に伴い造影検査後の抜針を技師も行う体制にした。
- ・診療放射線技師の業務拡大に対応し、CT・MRI・RI 検査における静脈路確保を実施できる体制にした。

教育

- ・学会、研修会に積極的に参加して、スキルアップを行った。
- ・定期的勉強会等を行い技術の向上を図った。
- ・診療放射線技師法施行規則等の一部改正に伴い、日本診療放射線技師会が主催する告示研修を修了し、当院にて静脈路確保研修を行った。

コスト削減

- ・当科で修理して使用できる物は、できる限り修理を行った。
- ・使用していない検査室の照明及び空調の電源は、細目に切り節電に心がけるようにした。

実習生の受け入れ

- ・4 施設の教育実習施設として指導を行った。

【診療・部署実績】

2025 年度実績

検査件数		2025 年度	2024 年度	2023 年度
	一般撮影	24,520	24,396	26,333
2025 年 4 月 ～	ポータル撮影	7,622	8,727	7,949
	上部消化管	0	0	2
	下部消化管	0	0	0
	エックス線 TV	1,666	1,479	1,271
	乳房撮影	654	698	612
	骨密度測定	245	290	326

2026年3月	頭部血管撮影	159	128	191
	腹部血管撮影	31	22	21
	心臓血管撮影	245	267	247
	CT	30,388	30,773	30,923
	MRI	7,668	7,561	7,413
	RI	274	292	285

◆放射線治療科

【部 署 概 要】

【医師および全体】

高精度放射線治療(IMRT、定位照射)を中心に年間約300件の治療を行った。他院では実施が困難な症例においても、エビデンスや十分な文献的考察に基づいた放射線治療を実践している。そのため、半数以上が他院からの紹介患者となっている。なお、安全かつ高精度の放射線治療を推進することを目的として、一定の基準を満たす施設を日本放射線腫瘍学会は認定施設としているが、当施設は2017年4月より同施設認定を受けている。

医師の初回診察時に治療方針が決定されるが、個々の患者にとって最適な放射線治療を提供できるよう、十分な説明の後に患者の意思決定がなされるよう特に配慮している。この初回診察時から、患者の不安軽減のために、看護師による介入も行われる。治療計画は医師・診療放射線技師により行われ、複数回の確認作業を経ることにより最適化している。診療放射線技師や医学物理士は治療成績に直結する日々の照射精度を担保するとともに、照射時の患者の精神的・肉体的苦痛の軽減に努めている。治療期間中には医師の定期診察や看護師の定期面談を行っているが、治療終了後にも医師やがん放射線療法看護認定看護師による継続的な経過観察を行い、治療効果判定や副作用に対する早期介入を行っている。これらの過程は、患者のQOLを保ち局所制御を得ることに役立っている。診療部、看護部、医療技術部、管理部の各職種が共通の放射線治療業務フローに則って行動しているが、明文化された内容以外にも各職種間で補完しながら業務を行っている。また、業務フローは双方向性であるためにスタッフ一人ひとりのコミュニケーションが重要な部署である。円滑な情報共有を行うために、各職種が参加する週1回の業務カンファレンスならびに症例カンファレンスを行っている。

【医療技術部門】

放射線治療専門放射線技師および医学物理士が中心となり、放射線治療に関する専門的な知識と技術を生かして、安全で精度の高い治療の提供に努めています。放射線治療を受ける患者さんが安心して治療を継続できるよう、丁寧な接遇を心がけるとともに、正確な照射を実施しています。

また、放射線治療装置の日常点検および定期的な品質保証・品質管理(QA/QC)を行い、装置の安定稼働と治療の安全性確保に取り組んでいます。治療計画業務では、治療計画の作成および支援を行うとともに、必要に応じて放射線治療医と協議し、患者さん一人ひとりに適した治療計画となるよう努めています。

さらに、作成された治療計画の線量検証や、三次元線量検証システムを用いた患者体内の線量分布予測を実施し、作成された治療計画を安全かつ正確に実施できることを確認しています。これらの取り組みを通じて、放射線治療の安全性と正確性を確保し、治療品質の維持・向上に努めています。

【看護師】

がん放射線療法看護認定看護師が、治療科専従看護師として1人体制で治療科における全診察業務、照射業務を担当しながら全患者さんの治療が安全・安楽かつ最小限の有害事象で予定された治

療を完遂できるようサポートを行っている。また専従看護師が、外来患者さんの日々の体調確認および治療を安全・安楽に受けることができるよう照射担当診療放射線技師と連携しながらその日の記録を残すことで、外来照射診療料の算定を行っている。専従看護師不在時は、他の照射担当看護師および照射担当診療放射線技師への事前の申し送り、医師事務作業補助者へ診察業務の後日面談対応を依頼しながら不在時の現場調整を行っている。

【医師事務作業補助者】

医師の診療補助(オーダー入力・管理・診断書作成)、治療センター内の患者情報管理及び伝達調整、カンファレンス、他院からの治療依頼調整、治療検査着の管理、診察や検査予約の調整

【診療体制】

【スタッフ】

<医師>

板垣 康 顧問
森本 英之 副部長

<診療放射線技師>

川守田 龍 医療技術部長(兼:放射線部門技師長)
中原 隆太 係長
古館 奈津希
中坂 優太
吉川 雅樹
郡田 遥士

【特色・トピックス】

【医師】

- ・日本の現状では高精度治療の利点が十分に患者に還元されているとはいえない。当院では専門的知識に基づき、安全面に十分配慮したうえで、従来一般的に用いられているよりも幅広く高精度治療を実施し、その成績を国内外の学会・論文等で報告している。
- ・自由診療による高精度放射線治療を実践している。
- ・放射線治療専門医が2名在籍していることは、施設基準を満たすためのみならず、高精度治療を迅速に実施していくために今後必要である。

【医療技術部門】

- ・2025年より TrueBeam HyperSight と ExacTrac Dynamic を組み合わせた高精度放射線治療システムを導入し、治療精度の向上と患者さんの負担軽減を両立した、患者さんにやさしい放射線治療を提供している。また、AIを活用した治療計画支援システムや高度な治療計画装置を用いて、症例に応じた質の高い治療計画を医師と協力して作成している。
- ・医学物理士2名、放射線治療専門放射線技師4名が在籍し、治療計画の作成・支援から照射、線量検証、装置の品質管理まで一貫して関わることで、患者さんが安全かつ安心して治療を受けられる体制を整えている。
- ・高精度放射線治療や品質管理などに関する研究に取り組み、その成果を学会や論文で発表している。また、得られた知見を日常診療へ還元し、放射線治療の安全性と治療品質の継続的な向上に努めている。

【看護師】

- ・がん放射線療法看護認定看護師が特定行為研修を修了後、特定認定看護師として主に前立腺癌患

者に対して脱水リスク評価を行いながら該当する患者においては手順書に沿って介入することで、治療中の膀胱尿量の再現性確保や医療被曝の低減に務めている。

・がん拠点病院として、がん放射線療法看護認定看護師が看護外来を開設しており治療期間中および治療後の患者さんのフォローを医師と連携しながら行っている。

【医師事務作業補助者】

他職種や他科との連携とりながら、治療や診察をスムーズにすすめられる様にサポートをしている。

【診療・部署実績】

2025年度の照射件数は2,691件であり、うち1,278件(48%)が高精度放射線治療であった。その内訳は、IMRTが1,278件であり、定位照射が163件であった。

・上記の如く高精度治療の比重が高いことが当施設の特徴ではあるが、年度を通じて照射装置を高い精度下に管理することにより、安全に治療を実施できた。

◆救急科

【部署概要】

院内各科と協力し、救急患者対応を行っています。

【診療・体制】

常勤医、専攻医(大阪大学医学部附属病院救急科専門研修プログラム内ローテーション)及び初期臨床研修医で日勤帯の救急患者対応を行っています。

【特色・トピックス】

各科協力の下、救急搬送を積極的に受け入れ、2025年度は8,568件の救急搬送患者を受け入れました。

【診療・部署実績】

救急搬送件数 8,568件

ER総受診患者数 15,100人

◆腫瘍内科

【部署概要】

腫瘍内科では臓器横断的にがん薬物療法を中心に適切ながん治療を提供すべく各診療科、他職種と連携しながら診療を行っている。

2020年4月にがん診療センターが新規オープンし、外来化学療法ベッドが5床から15床に増床した。また新たにアドバンス・ケア・プランニング外来を新設し、患者に合わせた最適な治療・療養方針を説明している。

がん薬物療法認定薬剤師・外来がん治療認定薬剤師による薬剤師外来を新設し、新規薬剤を用いた治療導入の際の服薬指導を行っている。

がん化学療法認定看護師によるがん薬物療法による有害事象、アピアランス・ケアなどを行っている。

がん専門看護師・乳がん看護認定看護師による全人的ケアの提供、特に乳がん患者への積極的ケアへの介入を行っている。

薬剤師外来のフォローは腫瘍内科で行っている。また、外来化学療法室での有害事象発生時に主治医とともに腫瘍内科で対応している。

2023年4月からは腫瘍内科は常勤2名体制となり、腫瘍内科外来・入院症例のみならず、薬剤師外来や化学療法センターでの問題症例についてもカンファレンスで検討している。

最近ではがんゲノム医療の発展に伴い、家族性腫瘍・遺伝性腫瘍のコンサルト窓口を請け負っている。特に Lynch 症候群、遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対するスクリーニング、遺伝カウンセリングを行っている。

がん関連学会の参加・発表、講演会、がん教育に積極的に関わっている。

がん薬物療法チームとして、治療方針の相談、有害事象に対する支持療法のアドバイスなども行っている。

【診療体制】

腫瘍内科・副部長 岡田佳也
 常勤医師 北代紗也
 がん薬物療法認定薬剤師・薬剤部課長 其田学士
 外来がん治療認定薬剤師・薬剤部係長 岩井裕香
 がん化学療法看護認定看護師 久寶麻衣子
 がん専門看護師・乳がん看護認定看護師 植村未奈子

【特色・トピックス】

昨今がん診療の発展はめざましいが、その中心はがん薬物療法である。欧米では以前から Oncology(腫瘍学)が専門分野として確立されているが、本邦では Oncologist(臨床腫瘍医)は相対的に大変少なく、化学療法は臓器別の専門医師が行うことが多い。しかし、免疫チェックポイント阻害剤に代表される多種多様な薬剤が登場したことで治療の選択が広がっている。乳癌領域においては免疫薬物複合体の登場により飛躍的に治療成績の向上がみられる。一方で有害事象も複雑化し、支持療法の重要性が指摘されている。これらのことから年々、がん薬物療法専門家の臓器横断的な知見に基づいた化学療法の需要が高まってきており、腫瘍内科医に求められる期待は大きい。最新のエビデンスに基づいた治療の実践と支持療法をきめ細やかに行い、また早期から緩和治療を積極的に導入し、より患者個人に合わせた高精度のがん診療を実践している。

また近年ではがんゲノム医療がトピックスとなっており、主に Lynch 症候群、遺伝性乳癌卵巣癌症候群のスクリーニングを含めた遺伝カウンセリングを行っている

【診療・部署実績】

- ・腫瘍内科 外来件数(延べ人数): 1613 人
- ・腫瘍内科 外来化学療法加算件数: 664 件
- ・腫瘍内科 手術件数(ポート造設件数): 24 件
- ・薬剤師外来件数 :30 件
- ・薬剤師面談件数:598 件 がん患者指導管理加算件数:136 件 連携充実加算件数:321 件
- ・化学療法センター治療件数(延べ件数):1632 件

◆DS(日帰り手術)センター

【部 署 概 要】

日帰り手術(短期滞在手術)は患者さんに多くのメリットのある治療方法である。
 多根総合病院 DS(日帰り手術)センターは、が全国に先駆けて 1998 年に開設した、日帰り手術を専門に行う施設で、2025 年 3 月末時点で 43164 例の治療実績である。特に日帰りでは難しいと言われる胆石やソケイヘルニアなど数多くの経験を持っておりこのうち約 99%の患者様が当日あるいは翌日に退院されている。 2022 年 9 月より総室 6 床を夜間の E ルームとして運用することとなった。

【診 療・体 制】

丹羽英記 統括院長/名誉センター長
 小川 稔 院長
 土屋康紀 センター長
 棚橋識生 副センター長
 看護師 (消化器外科棟とローテーション)
 クラーク

【特 色・トピックス】

<基本方針>
 短期滞在専門施設として社会的ニーズに応え、質の高い医療を提供する
 <目標> 患者満足度の高い接遇の実施
 <特色> 鼠径ヘルニア、胆石症手術、上下内視鏡検査・処置の症例維持
 各科からの要望に応え、短期滞在治療に適した患者を受け入れる

【診 療・部署実績】

2025 年度件数 1198 (1283)件 (昨年度)
 ≪外科≫451 (472)件 ≪消化器内科≫415 (384)件 ≪泌尿器科≫115 (144)件 ≪整形外科≫1 (13)件
 ≪形成外科≫145 (186)件 ≪耳鼻科≫56 (65)件 ≪皮膚科≫9 (5)件
 病床稼働率: 164.4 (164.7)%

主な疾患数(昨年度)

≪外科≫

ソケイヘルニア211(248)	大腸ポリープ切除2(1)	大腸内視鏡検査28(22)	上下部内視鏡検査87(81)
胆石・ポリープ25(39)	痔核52(48)	虫垂炎2(2)	C/ポート留置/抜去15(7)

≪消化器内科≫

大腸ポリープ切除100(138)	上下部内視鏡検査235(180)	大腸内視鏡検査69(38)
------------------	------------------	---------------

≪形成外科≫

皮膚皮下腫瘍34(39)	眼瞼下垂34(61)	鼻骨骨折23(27)
--------------	------------	------------

≪泌尿器科≫

前立腺生検79(97)	尿管結石10(38)	包茎5(5)
-------------	------------	--------

≪耳鼻科≫

副鼻腔炎10(17)	渗出性中耳炎4(12)
------------	-------------

≪整形外科≫

捻挫70(8)	経皮ピンニング0(1)
---------	-------------

◆看護部

【部 署 概 要】

病棟	診療体制	病棟	診療体制
D S C	外科系・消化器内科等の日帰り、手術・短期滞在手術対象	10階	整形外科、形成外科、皮膚科
7階	消化器外科	11階	消化器内科
I C U		12階	泌尿器科
8階	循環器内科	緩和	緩和ケア
8H C U		手術室	
9階	脳神経外科・脳神経内科	救急外来	
9階H C U		一般外来	

【診 療・体 制】

【特 色・トピックス】

1. 研修受講・資格取得

1.研修

1)看護師特定行為研修 8期生開校式:5月2日 坂上智美、桐吉美帆、池田知也

2)認定看護管理者教育課程受講 セカンドレベル:木田容子、
サードレベル:渡上朋美

3)京都橘大学 認定看護師教育課程 皮膚・排泄ケア分野受講:倉田慧斗

4)大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会:丸石綾子、宮本芽依

5)多職種連携会「タネまきの会」医療法人かもめクリニック共催研修会開催 5月30日、11月14日

6)2025年度インターンシップ(4/19、8/16、8/30、11/15、12/6、1/24、2/14、3/7)49名参加

7)医療安全管理者養成研修:藤井愛子

2. 認定資格取得

○緩和ケア認定看護師:下平晶子

○認定看護管理者:米倉修司

【看護部の取組み】

1.トピックス

1)2025年5月 救急救命士によるER応需電話対応開始(週末の日勤帯より開始)

2)2025年5月 入退院スクリーニングシートによる評価対象者抽出項目追加

3)2025年6月 RRS体制の再整備(オンコール体制)

4)2025年6月 ベッド管理方法変更(MEによる一元管理)、転棟時ベッド交換の中止

5)2025年6月 入院時摂食機能評価フローチャート導入

- 6)2025 年 7 月 予約入院の持参薬鑑別受け渡しを 9 階 12 階にも拡大
- 7)2025 年 8 月 看護部マニュアルを全て電子媒体に変更
- 8)2025 年 9 月 モバイル端末を活用した内視鏡室関連治療、検査における申し送りの簡素化と電話連絡削減
- 9)2025 年 11 月 休日・夜間帯の入院連絡をモバイル端末に変更
- 10)2025 年 12 月 見守りカメラ設置に向けて準備開始(設置は 2026 年度内を予定)
- 11)2025 年 12 月末 日清による配下膳業務終了
- 12)2025 年 12 月 特定行為実施依頼フローの変更
- 13)2026 年 1 月 救急救命士の病棟夜勤業務開始

2. 学校講師・講義

- 1)大阪府病院協会看護専門学校 成人を支える看護Ⅰ 中村亜衣子、有地正人、植村未奈子
健康障害と看護Ⅳ 渡上朋美、木田容子、寒竹朋代
- 2)学校法人 順正学園 九州医療科学大学
生命医科臨床工学コース 3 年 チーム医療概論:米倉修司

3. 日本看護協会・大阪府看護協会講師

- 1)大阪府看護協会 クリティカルケア認定看護師教育過程臨地実習受入(1 名):矢野晋、米倉修司
- 2)大阪府看護協会 クリティカルケア認定看護師教育課程講師:米倉修司

4. 研修講師

- 1)西区明治地区健康講座「実は予防できるがんと生活習慣。感染関係」2026 年 3 月 27 日:宮崎悠
- 2)ヴェクソンインターナショナル株式会社「S-QUE 看護管理者マネージメントラダー研修」教材講師:米倉修司
- 3)港区健康フェスタ 2025「もしバナでよりよい人生を！」(2025 年 11 月 8 日):米谷晶子
- 4)大阪府がん診療ネットワーク主催「ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム」(2025 年 10 月 25 日-26 日):米谷晶子

5. 看護学生実習受け入れ

- 1)大阪府病院協会看護専門学校 3 年課程
- 2)宝塚大学
- 3)大和大学
- 4)大阪医療看護専門学校
- 5)関西医療福祉大学
- 6)大阪成蹊大学
- 7)四條畷看護専門学校

6. その他

- 1)大阪市立市岡東中学校職業講話 2026 年 2 月 10 日 清家美紀、中村早哉香
- 2)令和 7 年度 金蘭会高等学校「1 日看護体験会」受入れ 2025 年 7 月 28 日、7 月 31 日
- 3)令和 7 年度 大阪市立市岡東中学校 職業体験 6 名受け入れ 2025 年 11 月 14 日 廣田未来、加藤朱音

7. 2025 年就職フェア参加

- 看護 Roo! 就活 2025 年 12 月 20 日 米倉修司、大上晃生、上野桜
- マイナビ就職説明会 2026 年 2 月 1 日 渡上朋美、廣田未来、北本舞
- 看護 Roo! 就活 2026 年 2 月 21 日 木田容子、立花優樹、村埜美優香

【診 療・部署実績】

1. 看護目標に対する評価
 - 1) 看護部部署別中間評価(9 月)
 - 2) 看護部部署別目標評価(3 月)
2. 看護部委員会成果発表会(3 月)

◆薬剤部

【部 署 概 要】

調剤・製剤・注射剤各業務、在庫管理、薬剤管理指導・医薬品に関する情報の収集と提供を中心に薬に関する業務を取りまとめている。2020 年 10 月から SPD6 名と共に在庫管理を行っている。

医薬品情報を加味した医薬品の安全かつ安定な供給に努め、また薬剤師の職能を生かせるようにチーム医療に貢献していける薬剤師の育成にも力を入れている。

<薬剤部の方針目標>

- 医薬品情報を加味した安全かつ安定的な医薬品供給を努める。
- 診療報酬算定可能な業務(抗がん剤や高力カロリー輸液の混注、服薬指導など)への取り組み
- 薬剤師教育の中で、専門・認定薬剤師を育成する。
- チーム医療に参画し、様々な領域で薬剤師としての能力を発揮できるよう取り組む
- 業務内容を見直し、他部門との連携を図る
- 薬剤師育成のためのラダーを作成し、教育環境を整える

【診 療・体 制】

常勤薬剤師:21 名 事務員 1 名
夜勤体制あり

がん薬物療法認定薬剤師(1 名) 毎週金曜 午後 薬剤師外来
外来がん治療認定薬剤師(1 名) 毎週水曜 午前 薬剤師外来

【特 色・トピックス】

<表彰>

- 大阪府薬事関係等功労者 表彰 森本 明美

<調剤室>

入院患者への内服・外用薬の調剤を行い、外来患者への一部院内調剤を行っている。2021 年 10 月より診察室において院外処方箋発行となっており、保険薬局からの疑義照会についてはプロトコルを作成し、医師・薬剤師間で同意のもとで「疑義照会の簡素化」を行っている。オーダーリングシステムで医師が処方を入力し、薬剤部で処方箋と薬袋を発行し、主に一包化調剤している。適正在庫に努め発注も行っている。予約入院の患者対象に薬剤部 1F 窓口で持参薬を預かり、初回面談を行っている。アレルギー歴や常用薬など情報把握した上で安全に薬剤が使用されるように努めている。

<注射室>

外来・入院患者の注射薬を個人セットして払い出しを行っている。抗がん剤治療に関しては投与前日までに、複数名の薬剤師で登録されたレジメンを確認し、薬剤を取り揃え、抗がん剤投与、当日に

無菌調製室内の安全キャビネットを使用して無菌的(菌汚染の防止)、安全的(被爆の防止)に混注調製し提供している。また無菌調製室内のクリーンテーブルを使用して高カロリー輸液の無菌調製や院内製剤の調製も行っている。適正在庫に努め発注も行っている。

<病棟管理業務管理室>

入院患者さんを対象に、持参薬の薬歴管理をはじめ、入院中の内服薬、外用薬、注射薬、検査値等の情報を把握した上で、お薬のしおりを使って薬の説明を行うなど、安心して薬物治療を受けてもらえるよう努めている。バンコマイシン注やアルベカシン注などのTDM(適正な薬物療法を行うためのモニタリング)を行い、副作用のモニタリングや投与量の提案を行っている。また、副作用など患者さんから早期に聞き出して医師や看護師にフィードバックすることにより、症状が悪化することを未然に防いでいる。注射薬では流量や2種類以上投与される場合に配合変化を確認し、ポリファーマシーの対策など、必要に応じて医師に処方提案をすることによってより良い医療の提供を目指している。

<医薬品情報管理室>

厚生労働省などの公的機関または製薬会社、書籍などから情報を収集・整理・保管し、医師や看護師などの医療スタッフへ情報提供を行っている。

薬事委員会の資料作成・採用医薬品の管理などの業務を行っており、DI情報はイントラネット(CoMedix)や電子カルテで参照可能である。市販後調査や副作用報告について一元管理を行っている。また地域薬局と連携で月1回勉強会を行っており、情報の共有など連携を図っている。

<薬剤師外来>

がん薬物療法を受けている患者に対して「がん薬物療法認定薬剤師」または「外来がん治療認定薬剤師」が面談を行っている。治療で使用する薬剤の説明をはじめ、副作用やコンプライアンス等の確認をすることで、より良いがん治療に貢献出来るよう努めている。

<抗菌薬適正使用推進>

薬剤耐性(AMR)対策の推進、特に抗菌薬の適正使用推進の観点から、抗菌薬適正使用支援チームの組織を含む抗菌薬の適正使用を支援する体制を作り、AST(抗菌薬適正使用支援チーム)において広域抗菌薬・抗MRSA薬の使用症例、血液培養陽性症例、抗菌薬長期使用症例、主治医からの相談症例などをチームで検討し、その内容を主治医にフィードバックしている。

【診療・部署実績】

<調剤業務>

院外処方箋の監査、外来院内処方及び入院の調剤

2025年度の 院外処方箋枚数: 4,221 枚/月、院内処方箋枚数: 626 枚/月、

後発医薬品使用割合: 94.2%

院外処方箋発行率 87.0%、入院処方箋枚数 6,888 枚/月

外来一包化: 12 件/月 入院一包化: 2492 件/月 持参薬一包化件数 4 件/年(時間外)

予約入院患者初回服薬指導 1F にて 108 件/月 実施。

<注射業務>

入院患者の注射投薬、高カロリー輸液、抗悪性腫瘍剤の混注、院内製剤調整、病棟薬剤在庫管理

2025年度の入院注射処方箋枚数: 7,846 枚/月、外来注射処方箋枚数: 330 枚/月

高カロリー輸液の無菌調製件数: 168 件/月

外来入院抗悪性腫瘍剤の無菌調製件数: 外来患者 147 件/月 入院患者 11 件/月

院内製剤件数: 26 件/月

<病棟での薬剤活動・業務等>

病棟担当薬剤師は入院患者の薬歴の管理、服薬指導、情報提供等を行い患者に安心して薬物治療を受けてもらえるように心掛けている。

2025 年度 薬剤情報提供 服薬指導患者数 495 人/月 服薬指導面会件数 622 件/月
 薬剤管理指導等の加算件数 541 件/月 麻薬管理指導加算 5 件/月
 持参薬鑑別:292 件/月 持参薬管理件数:467 件/月
 抗 MRSA 薬 TDM 件数(2025.4 月～2026.3 月):バンコマイシン 290 件

<医師に対する支援>

処方代行修正件数 416 件/月

<DI 業務>

薬剤部だより発行
 副作用報告:1 件/年、質疑応答:55 件/年

<薬学部実務実習受け入れ>

2025 年度 1 期 1 名、2 期 1 名、3 期 1 名 計 3 名の受け入れ

<治験審査委員会>

CRC(コーディネーター)薬剤師 4 名(兼任)で管理
 治験審査委員会(IRB)に参加、議事録作成を行っている。2025 年度は開催されておらず。

<認定活動/チーム活動>

薬剤師が積極的に活動している院内のチーム活動

- ・がん薬物療法認定薬剤師 1 名、外来がん治療認定薬剤師 1 名、
 患者指導、薬剤師外来、レジメン管理、処方修正代行
 指導件数:41 件/月
 がん患者指導管理料ハ算定件数:12 件/月
 連携充実加算算定件数:23 件/月

- ・抗菌化学療法認定薬剤師 3 名(感染制御部・AST・ICT に所属)
 カンファレンス(週1回)、ラウンド(週1回)・ICT ニュース作成・ICT 講習会講師
 感染制御部のミーティング(週1回)

AST(抗菌薬適正試用支援チーム)として抗菌薬適正使用を支援するために広域抗菌薬や
 長期使用症例の把握、抽出、検討、フィードバック、相談応需
 抗菌薬に関する支援の受け入れ率:83%

ICT(感染制御チーム)6名(抗菌化学療法認定薬剤師 3 名+薬剤師 3 名)
 環境ラウンド(週 1 回)・ICT ミーティング(月1回)

- ・NST 専門療法士 4 名 + 薬剤師 2 名
 ラウンド(週2回)、NST 会議(月1回)、NST 実施研修講師 又は ファシリテーター、
 NST 講習会講師
 1 回の回診:平均 20 人/週

・緩和ケアチーム（2名の薬剤師で持ち回り制とした）
 緩和ケアラウンド(週1回)・緩和ケアカンファレンス(週1回)
 疼痛コントロール相談応需・術後支援等の話し合い

◆医療技術部 中央検査部門

【部 署 概 要】

中央検査部門は、検体検査室・病理検査室・細菌検査室・生理機能検査室・中央採血室の5つのセクションに分かれており、正確、迅速、経済的、効果的に患者様の為、検査を行っています。
 検体検査室では、血液や尿などを検体として生化学検査、血球数算定、クロスマッチ、尿検査、感染症検査、免疫検査などの臨床検査を実施しています。病理検査室では、組織診(術中病理組織診断)・細胞診を主な業務とし、臨床検査技師が標本を作製し病理医(細胞診の一部は細胞検査士をもつ臨床検査技師)が診断しています。その他に解剖も実施しています。細菌検査室では、喀痰や尿、血液などから細菌の培養、同定を行い有効な抗菌薬を見つけるために薬剤感受性試験を実施しています。また、質量分析を利用した細菌同定検査を実施し、迅速に結果を報告しています。生理機能検査室では、心電図、肺機能検査・脳波・各種超音波検査などを実施し、患者様からの生体情報を臨床へ報告しています。中央採血室では、正確で迅速な臨床検査データを出すため、外来患者様の採血や鼻腔検体の採取を臨床検査技師が実施しています。

【診 療・体 制】

臨床検査技師:31名(技師長1名、係長3名、主任1名、サブスーパーバイザー5名)
 認定臨床検査技師:認定輸血検査技師(2名)、NST専門療法士(1名)、糖尿病療養指導士(2名)、超音波検査士(2名)、緊急臨床検査士(4名)、二級病理技術士(5名)、心電図検定1級(1名)3級(3名)、細胞検査士(3名)、医療安全管理者(2名)、臨地実習指導者(3名)

【特 色・トピックス】

正確で迅速な検査結果を報告するため、大阪府医師会・日本臨床衛生検査技師会・大阪府臨床検査技師会・各種メーカーの外部精度管理に積極的に参加し、臨床検査の精度向上に努めています。また、臨床検査適正化委員会や、輸血療法委員会を年数回実施し、業務の改善や輸血の適正な使用を行っています。チーム医療にも協力しており、NST、ICT、AST、糖尿病教室運営に参加しています。実習生の受入も行っており、大阪医療技術専門学校1名、大阪行岡医療専門学校2名、近畿大学1名の指導を行いました。

【診 療・部署実績】

2025 年度実績

安静心電図(6,390件)、心エコー(4,437件)、腹部エコー(4,552件)、乳腺エコー(797件)、頸部エコー(873件)、甲状腺エコー(375件)、肺機能(1,837件)、脳波(396件)、下肢血管エコー(1072件)、外来採血(34,399件)、細胞検査(2,345件)、組織検査(5,094件)、一般細菌(9,330件)、結核菌培養(420件)、微生物迅速検査(8,451件)、生化学検査(100,559件)、血清検査(44,369件)、一般検査(36,181件)、血液検査(94,659件)

◆医療技術部 臨床工学部門

【部 署 概 要】

臨床工学部門では、心臓カテーテル検査や血液浄化、人工呼吸器・ME 機器管理業務、ペースメーカー業務、脳神経モニタリング、手術室業務、CPAP 導入説明、医療機器安全研修を行っています。24 時間体制をとっており、緊急カテーテル検査や緊急透析、ME 機器トラブル対応をしています。

【診 療・体 制】

臨床工学技士:10 名

【特 色・トピックス】

血液浄化業務:緊急透析を中心に腹水ろ過やその他特殊血液浄化を施行しています。
 人工呼吸器業務:人工呼吸器のセッティングやトラブル対応、病棟ラウンド時に使用点検を実施しています。
 心臓カテーテル業務:心臓カテーテル検査では、血管内超音波エコーの操作・解析や IABP やポリグラフ、ペースメーカーの操作、記録を行っています。
 ME 機器管理業務:輸液・シリンジポンプなどの医療機器の中央管理を実施しています。清掃、点検を行っているため故障や破損の早期発見ができ安全かつ清潔な医療機器を提供しています。また、院内で報告される医療機器の大半の異常は、院内点検・修理で対応できるため、医療機器修理費用の削減と提供までの時間短縮ができます。
 医療機器安全研修の実施:医療機器の安全使用のため、年 2 回の医療機器安全研修を開催しています。
 ペースメーカー外来:外来に来られる患者のペースメーカー点検を実施しています。
 手術室業務:手術室に 2 名が配属しており、機械出し・機器管理業務を行っています。

【診 療・部署実績】

心臓カテーテル検査 67 件、PCI 90 件、EVT 9 件
 アブレーション治療 69 件、EPS 2 件
 ペースメーカー植え込み
 新規 13 件、交換 7 件、PM 外来 220 件、PM 点検 42 件
 血液浄化
 HD・HDF 1 件、CHDF 5 件、血漿交換 14 件 G-CAP 21 件
 腹水濾過 35 件
 脳神経モニタリング 25 件
 機器管理
 ME 機器日常点検 11004 台、ME 機器定期点検 1360 台、院内修理・トラブル対応 812 件 メーカー修理 102 件 手術室修理対応 267 件 呼吸器患者移送 203 件
 手術業務
 器械出し 626 件、外回り業務 394 件
 CPAP
 導入 12 件、解析 256 件

◆医療技術部 リハビリテーション部門

【部 署 概 要】

KHS リハビリテーション部の急性期として心臓疾患、脳血管疾患、急性疾患に伴う廃用症候群、運動器疾患、呼吸器疾患、がん関連疾患などリハ医師が必要と判断するあらゆる患者様に急性期リハビリテーションを実施している。

また法人内の回復期、生活期のステージにおいても質の高いリハビリテーションをシームレスに提供できるよう多根脳神経リハビリテーション病院、多根第二病院、てんぽーざんと密に連携を図り、迅速な情報提供及び情報のフィードバックの徹底を常に心がけている。

【診 療・体 制】

リハビリテーション科専門医	1 名
理学療法士	18 名
作業療法士	1 名
言語聴覚士	3 名
リハ助手	1 名
受付事務	2 名

【特 色・トピックス】

リハ医師の指示より理学療法士、作業療法士、言語聴覚療法士が早ければ入院当日から対応する。また患者様の回復に応じて可能であればリハビリテーションセンターで実施し早期退院に努めている。整形外科の手術後やスポーツ整形外科にて主治医がリハビリテーションを必要と判断した場合には外来リハビリテーションを実施している。

また入院中のパーキンソン患者様に対して、適宜主治医が判断した上で退院後サポート体制強化のため外来リハビリテーションを行っている。

【診 療・部署実績】

実施延べ人数									
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
入院	2,284	2,152	1,882	1,987	1,920	2,402	2,418	2,269	2,388
外来	845	905	868	852	740	788	908	823	827
合計	3,129	3,057	2,750	2,839	2,660	3,190	3,326	3,092	3,215
	1 月	2 月	3 月	合計					
	2,446	2,213	2,368	26,729					
	834	770	814	9,998					
	3,280	2,983	3,182	36,727					
入院疾患別延べ人数									
	人数	%							
心大血管リハビリ	1,440	5.38							
脳血管リハビリ	11,027	41.25							

廃用症候群リハビリ	4,586	17.15	
運動器リハビリ	7,239	27.08	
呼吸器リハビリ	2,348	8.78	
がんリハビリ	89	0.33	
合計	26,729		

◆医療技術部 栄養管理部門

【部 署 概 要】

患者様自身の回復力を高め、疾病治療に貢献することを目的として、個々の病状にあわせた適正な栄養量の食事を提供。また治療の一環として患者様に食生活に関する知識や技術を習得させ、栄養状態の改善、疾病の治療、増悪や再発の防止に役立たせる指導を行っています。

【診 療・体 制】

8名の管理栄養士で入院患者の栄養管理、入院・外来の栄養指導・栄養相談、給食管理など食事・栄養に関する業務を実施。

入院は一人あたり1～2病棟を受け持ち、栄養指導、栄養相談、嗜好、食事アレルギーの確認等を実施
外来の栄養指導は予約制としているが当日も対応可

早期栄養介入(一部ハイケアユニット)実施

栄養サポートチーム(NST)はNST専任2名が2チームに分かれて活動

給食業務は日清医療食品(管理栄養士1名、栄養士3名、調理師4名、調理員15名)に委託、多くの治療食、摂食・嚥下状態や安静度に合わせた食事形態、アレルギー・嗜好等様々な病状に合わせた食事に対応。

【特 色・トピックス】

入院患者の栄養管理、入院外来の栄養指導・栄養相談、委託給食管理など食事・栄養に関する業務を実施。

医療安全、栄養サポートチーム(NST)、褥瘡、感染制御、クリニカルパス、災害対策、緩和ケア、化学療法、ACP、CS、脳卒中相談窓口、身体拘束最小化チーム、早期栄養介入(一部ハイケアユニット)、糖尿病教室プロジェクト等各チーム医療活動に参加。

給食業務は日清医療食品に委託、毎月イベントメニューやご当地メニューを実施。

食事摂取不良の患者様には本人の嗜好や摂取量に応じて食事内容を調整した個別対応食を提供。

救急部屋(Eルーム)夜間入院時の食事対応

嗜好調査(年2回実施 紙面对応)

法人内施設間、業務ローテーション実施

大学からの臨地実習受け入れ

栄養情報提供書(栄養サマリー)提供

診療報酬改定に伴う入院時食事療養費UP(2025年4月～)

消化器癌に対する外来術前栄養指導実施(2025年8月～)

【診 療・部署実績】

診療実績(件数)		2025
入院時食事療養費		374,188
内訳	入院時食事療養費 1	195,408
	入院時食事療養費 2	21,719
食堂加算		84,475
特別食加算		72,586
栄養食事指導		
個別 栄養 指導	入院(初回)	1,067
	入院(2回目以降)	189
	外来(初回)	233
	外来(2回目以降)	405
栄養管理		
栄養サポートチーム加算		823
早期栄養介入管理加算(250点/400点)		1030 / 809
栄養情報連携料		866

個別栄養食事指導内訳(件)		
	入院	外来
糖尿病	258	323
高血圧	184	24
脂質異常症	7	85
心疾患	238	15
肥満	2	15
腎疾患	30	14
高尿酸血症	1	6
肝疾患	39	22
上部消化管(胃切/潰瘍)	47 / 116	26 / 2
下部消化管(腸疾患)	117	11
脾疾患	22	5

がん	81	88
嚥下	13	0
低栄養/摂取不良	34	2
その他	78	1
貧血	6	0

2025 年度行事食

	イベントメニュー	ご当地メニュー
4月	お花見ご膳	鹿児島県郷土料理
5月	こどもの日	埼玉県郷土料理
6月	あじさいご膳	宮崎県郷土料理
7月	七夕 土用の丑の日	沖縄県郷土料理
8月	お盆	和歌山県郷土料理
9月	敬老の日・お月見	
10月	創立記念日	鳥取県郷土料理
11月	勤労感謝の日	長野県郷土料理
12月	クリスマス、冬至、年越しそば	
1月	お正月	
2月	節分	宮城県郷土料理
3月	ひなまつり	愛知県郷土料理

◆医療技術部 内視鏡部門

【部 署 概 要】

内視鏡センタースタッフは総合病院医療技術部に所属しており、内視鏡検査・治療・緊急内視鏡など多岐にわたる専門的な内視鏡業務に従事しています。患者ファーストを掲げ、UP-DATEされた知識や高度な技術及び最先端機器により、良質な検査・治療を医師と共に提供しています。

外来検査では嘔吐反射の少ない経鼻内視鏡による上部内視鏡検査を多く手掛けており、入院の方は鎮静下での安楽で安心な内視鏡をサポートしています。大腸内視鏡検査においては、医師による高い内視鏡操作手技に加え、意識下鎮静法での無痛大腸内視鏡検査に定評があり地域に貢献しています。治療内視鏡においては消化管止血術をはじめ、ARMS(内視鏡的逆流防止粘膜切除術)・ESD・ERCP・EUS・小腸カプセル内視鏡・小腸バルーン内視鏡などのより専門的な検査・治療も数多く行っています。

【診 療・体 制】

内視鏡センター専任スタッフは 20 名で、看護職 13 名(派遣 2 名)・臨床工学技士 4 名・検査技師 1 名・事務職 2 名で構成されています。

内視鏡スコープ・関連機器洗浄部門は委託スタッフ 4 名で担っており、内視鏡技師指導の下ガイドラインに沿った機器管理を厳守し、内視鏡スコープ洗浄消毒後の培養検査も実施するなど、安全な内視鏡機器を提供しています。内視鏡センターに所属するスタッフはライセンスが多職種で、日本消化器内視鏡学会認定「日本消化器内視鏡技師」の資格を有するスタッフも 10 名在籍しており、より専門性の高い内視鏡サポートが提供できています。また、内視鏡技師資格取得を志し入職するスタッフも多く、日々成長し活躍する人材育成はスタッフ間の協同が確立している証とも言えます。

私たちは、開腹なしでも高度な治療が可能な内視鏡の凄さに興味を持ち続け、思いを共有し、スタッフ間で協力しながら日々楽しく仕事を行っています。また先生方との距離が近い環境は知識を得る絶好のチャンスとなり、最先端治療で技術提供ができることはモチベーションアップにも繋がっています。

【特 色・トピックス】

内視鏡実績として年間 11,000 件以上の消化器内視鏡件数を有しており、スクリーニング検査をはじめ内視鏡治療として、逆流性食道炎/胃食道逆流症(GERD)に対する ARMS/ARMP、食道・胃・大腸の早期がんに対する ESD、食道胃静脈瘤に対する EVL・EIS、胆膵疾患に対する ERCP・EUS, EUS-TA(Tissue Acquisition)、Interventional EUS、消化管・胆管メタリックステント留置術・PEG 造設・PETG 造設など多種多様の治療を実践しています。

また、膵癌の早期発見を目指したプロジェクトでは「TANE-P プロジェクト」と称し、膵癌の早期発見に力を入れています。内視鏡センターでは EUS 予約枠を増枠し、手術ができるステージで膵癌を見つけようという取り組みを行っています。

当院の特徴としては断らない救急体制のもと、迅速な緊急内視鏡の実施が上げられます。24 時間 365 日、緊急内視鏡ホットラインで救急隊と直接連携しており、消化管出血や消化管異物、S 状結腸軸捻転、急性胆管炎などの緊急内視鏡を要するような疾患に数多く対応しています。

待機を担う内視鏡スタッフは、通常業務以外でも 24 時間/365 日ローテーションでの緊急内視鏡を医師と共に支え、多くの患者を救命しています。

内視鏡スタッフの業務内容としては問診票・同意書など関連書類の確認、各種前処置、検査前後オリエンテーション、検査治療準備・検査治療サポート・片付け、機器管理・メンテナンス、治療中のデバイス操作・記録・診療請求、予約管理・患者情報収集、デバイス調整、管理など様々ありますが、多忙の中でも私達が心掛けているのは、常に患者に寄り添い最善な内視鏡を提供することです。

※詳細は消化器内科活動報告を参照

【診療・部署実績】

2025 年 総件数:11,979 件 : 内訳

●上部内視鏡総数:7,166 件 →上部内視鏡:経口 2,696 件 / 上部内視鏡:経鼻 4,414 件

●下部内視鏡総数:2,974 件 →下部内視鏡:1,129 件/ポリペクトミー・EMR:1,320 件/大腸 ESD:74 件/止血:66 件/S 状結腸捻転整復術:22 件/大腸ステント:19 件/大腸バルーン拡張術:10 件/異物摘出術:5 件/経肛門的イレウスチューブ留置:4 件/瘻孔閉鎖術:1 件

●上部治療:570 件 →上部止血術:133 件/EVL・EIS・CA:124 件/PEG 造設:61 件/PTEG 造設:6 件/異物摘出術:44 件/バルーン拡張:14 件/イレウスチューブ留置:59 件/ステント留置:11 件/ED チューブ留置:4 件/ポリペクトミー:4 件/EMR:22 件/MIAB:3 件/瘻孔閉鎖術:0 件/胃捻転整復術:2 件/ARMS:19 件/LECS:3 件/咽頭 ESD:2 件/

●ERCP・胆膵治療:627 件 →各手技切石術:123 件/切石以外:332 件/Axios:14 件/ASE:28 件

●EUS・EUS 治療:623 件 →EUS-BD:15 件/EUS-CD:3 件/EUS-AD:2 件/EUS-LB:15 件/EUS-CPN:2 件
/FNA:71 件

EUS:501 件

●小腸内視鏡:53 件 →カプセル:25 件/異物摘出:2 件/バルーン拡張:3 件/止血術:2 件/その他:21 件

●PEG 交換:78 件 →PEG 交換:70 件/PTEG 交換:4 件/PEG 抜去:4 件

◆医療安全管理部

【部署概要】

・医療安全管理体制の確保及び推進のために、副院長を委員長とした医療安全管理委員会を設置している。医療安全管理委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合に、発生した原因究明のための調査と分析、医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策を職員へ周知している。

・主な業務内容は以下のとおりである。①インシデント・アクシデントレポートの収集、分析及び管理②医療上の事故等、防止策の立案、実施及び評価③マニュアルの策定等④現場の実地点検等⑤医療安全に関する調査、注意喚起、職員に対する医療安全研修の企画・開催⑥全死亡事例の把握と医療事故調査・支援センターへの報告について必要性の確認⑦医療安全に係る患者相談

【診療・体制】

・医療安全管理体制加算 I

・医療安全対策地域連携加算 I (2018～)

連携病院:加算 I・多根記念眼科病院

加算 II・多根第 2 病院

加算 I・社会医療法人愛仁会千船病院(2021 年度～)

・医療安全管理部の構成

医療安全管理部長:医師

医療安全管理者:看護師

医薬品安全管理者:薬剤師

事務職員

【特 色・トピックス】

1. インシデント・アクシデントレポートの分析及び対策等の検討
2. 医療安全ラウンド
3. 医療安全推進委員会の開催(年 12 回)
4. 医療安全管理委員会の開催(年 12 回)
5. 医療安全推進担当者活動支援
6. 医療安全研修の開催(年 17 回)
7. 医療安全対策・運営会議(週 1 回)
8. 医療安全対策地域連携加算に係る相互連携(年 3 回)
9. 大阪府医療安全対策委員会の参加(年 12 回)
10. 市西支部医療安全交流会の開催・参加および市西支部施設代表者会への報告(年 3 回)
11. 病院実習学生オリエンテーション
12. 新人看護師対象医療安全研修の開催(年 2 回)新入職者入職時医療安全研修
13. 医療安全管理マニュアルの改訂
14. 医療安全情報、医療安全ニュース(毎月)、学会・院外研修案内等の情報発信

【診 療・部署実績】

- ・2025年度インシデントレポート総報告件数:2,863 件、オカレンス報告件数:10 件
- ①インシデントレポート報告件数:1,511件
- ② アクシデント報告件数:21 件
- ③ ヒヤリ・ハット、その他の報告件数:1,331 件
- ④ オカレンスレポート報告件数:10 件
- ・医療安全研修会(年 17 回集合、e-ラーニング *新人看護師集合研修含む)
- 4 月 新入職医療安全集合研修「医療安全総論・各論」「実践現場における医療安全」
- 4 月 新人看護師研修「患者確認・6R」
- 6 月 新人看護師研修「多重課題とインシデントレポート」
- 7 月ビギナーズマネジメント研修「医療安全文化について」
- 7 月 8 月新入職医師・研修医対象「CVC の挿入・留置術」
- 8 月 ナレッジ研修「KYT(危険予知トレーニング)」
- 8 月 看護補助者研修「移乗介助」
- 9 月 全職員必須「虐待について」
- 9 月 全職員必須「身体拘束最小化」
- 10 月「放射線障害防止」
- 10 月「MRI 磁場による事故防止」
- 10 月「急変を予測、迅速で効果的な対応」
- 10 月「医療ガス・医療機器の安全管理」
- 12 月 新人看護師研修「KYT(危険予知トレーニング)」
- 1 月 3 月「気道管理」について

◆感染制御部

【部 署 概 要】

総合病院内における院内感染発生の抑止、感染症診断と治療の適正化、外部から院内への感染症伝播阻止のために、院内感染対策委員会(ICC)、実活動チームである院内感染制御チーム(ICT)、抗菌

薬適正使用支援チーム(AST)および ICC 下部組織である感染リンクスタッフ会を中心として、感染制御全般の活動を行っている。

【診療体制】

医師 3 名、看護師 1 名、薬剤師 3 名、臨床検査技師 1 名、事務部 1 名の体制

1. 感染制御チーム(Infection Control Team)

医療関連感染防止対策を迅速かつ円滑に推進実施する期間として感染制御チーム(以下、ICT)を設置している。感染制御対策に関する情報収集、監視、教育、啓発、指導、及び介入の役割を担い、感染制御対策のための組織横断的な活動を行っている。

2. 抗菌薬適正使用支援チーム(Antimicrobial Stewardship Team)

抗菌薬適性使用に関する事例を検討するために抗菌薬適正使用支援チーム(以下、AST)を置き、その組織及び運営に関し必要な事項を定め、抗菌薬の適正使用支援の推進を目的とし活動を行っている。

【特色・トピックス】

1. 院内感染対策委員会の開催(月 1 回、緊急時は随時開催)
2. 感染リンクスタッフ会の開催(月 1 回)
3. ICT 講習会の開催(年 4 回)
4. ICT ニュースの発行(月 1 回)
5. AST&ICT ラウンド(週 1 回)
6. AST カンファレンス(週 1 回)
7. 血培カンファレンス(毎日開催)
8. 各部署における感染症(とくに院内感染)発生状況の把握
9. 臨床検体からの病原体(とくに薬剤耐性菌)分離状況の把握
10. 病原体の薬剤感受性動向の把握
11. 抗菌薬適正使用のチェックと指導
12. 消毒薬適正使用のチェックと指導
13. 手指・器材の洗浄・消毒実施状況の把握と指導
14. 感染性医療廃棄物の処理状況の把握と指導
15. 国内外における感染症流行状況の把握と感染防止対策の徹底
16. 感染症に関する各種届出の指導と確認
17. 感染対策向上加算病院連携
18. 講師派遣
19. 手指消毒剤使用量の把握
20. 手術部位関連感染サーベイランス
21. 微生物サーベイランス
22. 症候群サーベイランス

【診療・部署実績】

◎感染に関する研修(年回集合、e-ラーニング、*新人看護師集合研修含む)

1. 4 月新入職者研修「感染管理の基礎」「感染の歴史」「抗菌薬について」「職業感染予防策」「口腔ケア」
2. 5 月新入職者研修「IV ナースⅠ(静脈採血)」
3. 6 月新入職者研修「IV ナースⅡ(静脈留置)」「膀胱留置カテーテル」「血液培養採取」「検体採取」
4. 10 月手指衛生技術チェック 全職員対象
5. 個人防護具着脱訓練
6. ICT 講習会「細菌検査の意義って何?」「抗菌薬適正使用支援チーム(AST)について」

「感染対策向上加算について」「クロスとリディオイデス・ディフィシル感染症」 7. 院内認定コース「感染管理について」「標準予防策」「感染経路別予防策」「症例検討(GW)」 「微生物について」「微生物検査について(演習)」「職業感染予防策」 「医療関連感染サーベイランス」「患者対応シミュレーション(GW)」 「感染管理認定看護師の役割」「修了試験」 8. 看護補助者研修「口腔ケアについて(講義・演習)」 9. CVC 認定制度研修 2 回開催(7/9・8/13) 10. 出張研修 1)7/25 塩野義社内研修会「大阪・関西万博と感染症」 2)10/15 亀望会コスモス苑「疥癬を中心に学ぶ “感染対策の落とし穴” ～知って防ぐ・気づいて止める～」 3)10/29 多根介護老人保健施設てんぽーざん 「疥癬を中心に学ぶ “感染対策の落とし穴” ～知って防ぐ・気づいて止める～」 4)12/4 大阪府看護協会 大阪市西支部 2025 年度 第 2 回 感染管理地域ネットワーク交流会(オンライン相談会) 5)12/9 OIPC 北部ブロック研修会「腸内細菌と抗菌薬適正使用」 6)12/13 第 4 会臨床で使える！！看護師のための感染症カンファレンス in 関西 「症例Ⅰ ゆるっと学ぼう感染症～いつも心に〇〇を～」 7)2/26 OIPC 西部ブロック研修会「衛生害虫について」 8)3/27 「実は予防できる！？がんと生活習慣・感染の関係 ～今日からできる予防をお伝えします～」 11. 論文「Exophiala dermatitidis による血流感染に抗菌薬適正使用支援チームが介入し 軽快した 1 例」 12. 1)感染対策向上加算 1-1 連携 相互ラウンド 10/6(来訪)・10/27(訪問) 2)感染対策向上加算 1-2. 1-3 連携 合同カンファレンス 5/27・9/6・12/16・3/7 3)指導強化加算 (A 病院訪問 12/24・2/16)、(B 病院訪問 12/28・3/30)

◆卒後臨床研修センター

【部 署 概 要】 初期臨床研修及び後期研修医の総合窓口業務を行う。 主な業務は初期臨床研修に関することで、医学生の見学・臨床実習の手配、リクルート活動・採用・実習・臨床研修修了までの事務的な部分や、厚生労働省に提出する各種書類の作成、協力病院との橋渡し業務等を行い、初期臨床研修に関する一連の事務手続き全てを担う。
【診 療・体 制】 卒後臨床研修センター長:森 琢児(上席副院長) 事務スタッフ:川本 博(人財マネジメントセンター課長) 事務部専従 1 名、兼任 1 名
【特 色・トピックス】 特定非営利活動法人卒後臨床研修評価機構(JCEP)の書面調査を受審し認定の更新が認められ、2028 年 3 月 31 日まで有効の認定証が交付された。 また、都市部の研修医の募集定員が減らされる中、当院の臨床研修の実績が評価され、研修医募集定員を維持している。

【参加実績】

2025年7月6日(日) レジナビフェア 2025(ブース訪問者 132名)

2026年1月31日(土) 近畿地区臨床研修病院説明会(ブース訪問者 20名)

2026年3月7日(土) 大阪府広域連携型プログラム医学生向けオンライン合同説明会(資料提供)

【開催実績】

2025年6月28日(土) 多根総合病院説明会(参加学生 32名)

【診療・部署実績】

2025年9月に実施した研修医採用試験は募集人員10名(広域連携プログラム1名を含む)に対して受験者は46名、倍率は4.6倍となった。マッチングシステムにより10名がフルマッチした。

2025年度の1年次研修医は11名(たすき掛け研修医2名含む:大阪公立大学医学部附属病院より2名、2年次研修医は8名であった。

2年次全員が無事に初期臨床研修を終え、専攻医(後期研修医)として1名が当院の外科に残った。

◆事務部**【部署概要】**

事務部は経営目的を達成するため、病院管理及び経営に必要な業務を担う。

医事課・診療支援課・患者支援課・診療情報管理室・事務部(総務・庶務・図書係)から構成される。

【部署体制】**【医事課】**

患者の受診受付及び予約業務、保険登録・確認業務、診療報酬明細書を作成・請求業務、保険外診療請求業務

患者負担金未収管理及び督促業務、査定・減点対策業務、施設基準・診療報酬管理業務

医事関連システム対応業務、各種書類作成管理業務、診療報酬請求統計データ作成業務

【診療支援課】

医師事務作業補助業務、救急受付業務、電話交換業務、医事紛争対応業務、患者対応業務、カルテ開示対応業務

ボランティア受入対応業務、ES業務など

【患者支援課】

入院患者の慢性期・回復期などの医療機関への転院調整ならびに施設への入所・帰所調整業務、自宅退院支援業務および関係機関との連絡・調整業務、経済的問題、社会資源、療養生活に関する相談(入院・外来)業務

紹介患者の受入(検査・外来・セカンドオピニオン・入院)に関するコーディネート業務、返書業務

専門医療機関、高次医療機関への転院・受診調整業務

開放型病院に関する業務(登録医総会や各科セミナーなどの企画・運用)

かかりつけ医の紹介(逆紹介)業務

【診療情報管理室】

入院診療録の管理

診療録量的監査業務・診療録質的監査管理業務

DPC データ作成・修正・提出に関する業務

各種患者数集計業務

診療録貸出業務、診療録開示用資料出力業務

院内がん登録に係わる業務の全般

退院サマリー記載状況管理業務

病歴登録業務、入院患者疾病統計業務

電子カルテ新規文書作成・修正・管理業務、スキャナー画像データ削除業務

入院基本 DB(入院基本 DB)送達業務

【医局秘書室】

医局員に関する秘書業務

オープンデータの入力補助

【事務部(総務・庶務・図書)】

事務部長秘書業務、文書管理業務、部門・部署間調整業務、災害拠点病院関連業務、災害対応業務、災害対応物品管理業務、感染制御部関連業務、衛生管理業務

医療安全推進業務、防火防災関連業務、施設・設備管理業務、行政対応窓口業務(感染・災害補助金関連)

新規業務の業務フロー構築、総務業務一般(人事・給与・経理を除く)

図書室に関する管理運営業務全般(図書館司書の管理含む)、各部署専門分野以外の業務全般

【特 色・トピックス】

・新入院 9,914 人

・退院患者数 9,914 人

・延べ入院患者数 103,008 人

・延べ外来患者数 119,390 人

・平均在院日数 9.4 日

・紹介患者数 9,679 人

【各科医師スタッフ 資格一覧】

施設： 多根総合病院

部署： 脳神経内科

役職・氏名	資格
学術顧問 柳原 武彦	日本神経学会専門医・指導医／日本脳卒中学会認定脳卒中専門医 日本内科学会認定医・指導医
部 長 白石 翔一	日本神経学会専門医・指導医／日本脳卒中学会認定脳卒中専門医・指導医 日本内科学会認定医・指導医／日本内科学会認定総合内科専門医・指導医
部 長 吉田 智子	日本神経学会専門医・指導医／日本脳神経血管内治療専門医 日本脳卒中学会認定脳卒中専門医／日本内科学会認定医・総合内科専門医
副部長 田中 なつき	日本神経学会専門医・指導医／日本内科学会認定医・総合内科専門医／ 日本脳卒中学会認定脳卒中専門医
医 長 北村 絵未	日本神経学会専門医／日本内科学会認定医／ 日本脳卒中学会認定脳卒中専門医
医 長 江並 朋美	日本神経学会専門医／日本内科学会認定医／ 日本脳卒中学会認定脳卒中専門医
医 長 小玉 大地	日本内科学会認定内科専門医／日本神経学会専門医／ 脳血栓回収療法実施医／日本脳神経血管内治療専門医
医 員 國方 桃代	日本内科学会認定内科専門医／日本神経学会専門医
医 員 仲辻 有佑	日本内科学会認定内科専門医

	施 設：	多根総合病院	部 署：	脳神経外科
役職・氏名	資 格			
きつこう会 理事長 多根 一之	日本脳神経外科学会脳神経外科専門医 日本脳卒中学会脳卒中専門医・指導医／大阪医科大学医学博士 難病指定医			
神経・脳卒中 センター長 小川 竜介	日本脳神経外科学会脳神経外科専門医 日本脳卒中学会脳卒中専門医・指導医／日本脳卒中の外科学会技術指導医 大阪医科薬科大学非常勤講師(元講師)／臨床修練指導医			

	身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に規定する医師(肢体不自由) 難病指定医／大阪医科大学医学博士／大阪医科大学臨床教育教授
脳神経外科顧問 救急科顧問 ICU 専任部長 小畑 仁司	日本脳神経外科学会脳神経外科専門医／日本救急医学会指導医・専門医 日本集中治療学会指導医・専門医／日本脳卒中学会専門医 日本脳神経外傷学会指導医・専門医 日本神経救急学会 Fellow／日本意識障害学会認定サポート医 日本頭痛学会指導医・専門医／臨床修練指導医、外国人臨床修練指導医 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に規定する医師(肢体不自由)
脳神経外科 統括部長 三木 義仁	日本脳神経外科学会脳神経外科専門医 日本脳卒中学会脳卒中専門医・指導医／日本頭痛学会頭痛専門医 日本神経内視鏡学会技術認定医／日本脳卒中の外科学会技術指導医 臨床研修指導医／日本医師会認定産業医／難病指定医 ACLS プロバイダー 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に規定する医師(肢体不自由) 日本静脈経腸栄養学会 TNT 修了医／大阪医科大学医学博士
脳神経外科部長 藤城 高広	日本脳神経外科学会脳神経外科専門医／日本脳卒中学会脳卒中専門医 日本神経内視鏡学会技術認定医／大阪医科大学医学博士／ 脳血栓回収療法実施医／日本脊髄外科認定医

	施 設：多根総合病院	部 署：皮膚科
役職・氏名	資 格	
部 長 中井 大介	日本皮膚科学会専門医／下肢創傷処置・管理のための講習会修了 臨床研修指導医／弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター 緩和ケア研修会修了	

	施 設：多根総合病院	部 署：耳鼻咽喉科
役職・氏名	資 格	
部 長 天津 久郎	大阪市立大学医学博士 日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科専門医・専門研修指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本気管食道科学会認定気管食道科専門医 身体障害者福祉法第 15 条指定医(聴覚・平衡機能障害、音声・言語機能障害)	

医局員 平山 靖子	日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科専門医
--------------	---------------------

	施 設： 多根総合病院	部 署： 放射線診断科
役職・氏名	資 格	
部 長 松尾 良一	日本医学放射線学会放射線診断専門医/日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医	
部長 濱澤 良将	日本医学放射線学会放射線診断専門医/日本核医学会専門医/PET核医学認定医/ 大阪市立大学医学部博士副部長	
副部長 池本 美奈子	日本医学放射線学会放射線診断専門医・研修指導医/マンモグラフィ読影認定医	
副部長 谷口 明繁	日本医学放射線学会放射線診断専門医	
	施 設： 多根総合病院	部 署： 放射線治療科
役職・氏名	資 格	
顧問 板垣 康	放射線治療専門医 日本核医学会専門医	
副部長 森本 英之	放射線治療専門医	
	施設： 多根総合病院	部署： 放射線診断部
	資格	人数
	検診マンモグラフィ撮影認定放射線技師	5
	日本X線CT認定技師	3

肺がんCT検診認定技師	1
日本磁気共鳴専門技師	1
日本救急撮影認定技師	1
デジタルマンモグラフィ品質管理	2
第一種放射線取扱主任者	2
画像等手術支援認定診療放射線技師	1
オートプシーイメージング認定診療放射線技師	1
被ばく相談員	1
放射線管理士	7
臨床実習指導教員	3
医療情報技師	2
医療経営士	1
施設：多根総合病院	部署：放射線治療部
資格	人数
放射線治療専門放射線技師	4 名
医学物理士	2名
放射線治療品質管理士	4 名
第一種放射線取扱主任者	2名
医療情報技師	1名
臨床実習指導教員	1 名

施設：多根総合病院	部署：中央検査部
資格	人数
臨床工学士	1 名
糖尿病療養指導士	2 名
上級健康食品管理士	1 名
NST 専門療法士	1 名
二級臨床病理技術士血液	1 名
二級臨床病理技術士臨床化学	1 名
二級臨床検査士微生物学	2 名
二級臨床検査士循環生理	1 名
認定輸血検査技師	2 名
心電図検定 1 級	1 名
心電図検定 3 級	3 名
超音波検査士	2 名
緊急臨床検査士	4 名
有機溶剤作業主任者	1 名
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	1 名
遺伝子分析科学認定士(初級)	1 名
細胞検査士	3 名
ピンクリボンアドバイザー(中級)	1 名
医療安全管理者	2 名
臨地実習指導者	3 名
施設：多根総合病院	部署：栄養管理部
資格	人数
NST専門療法士	3 名
糖尿病療養指導士	2 名

病態栄養認定管理栄養士	3名
フードスペシャリスト	1名

施 設:	多根総合病院	部 署:	臨床工学部
資 格			人数
3 学会合同呼吸療法認定士			2 名
透析認定士			1 名
ME 第 2 種			6 名
医療機器情報コミュニケーター			1 名

施 設:	多根総合病院	部 署:	リハビリテーション部
資 格			人数
3 学会合同呼吸療法認定士			6 名
認定理学療法士(呼吸)			1 名
認定理学療法士(循環器)			1 名
福祉住環境コーディネーター2 級			1 名
実習指導者講習会修了者			8 名
がんのリハビリテーション研修会修了者			2 名
理学療法士協会指定管理者(初級)			1 名

施 設:	多根総合病院	部 署:	看護部
資 格(看護師・准看護師の資格以外)			人数
認定看護管理者			2
介護支援専門員			3
がん看護専門看護師			2
集中ケア認定看護師			1
クリティカルケア認定看護師			1
皮膚・排泄ケア認定看護師			1
がん性疼痛看護認定看護師			1
緩和ケア認定看護師			1
感染管理認定看護師			1
乳がん看護認定看護師			1
がん化学療法看護認定看護師			1
認知症看護認定看護師			1
がん放射線療法看護認定看護師			1
特定行為看護師			20
大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会修了			18
3 学会合同 呼吸療法認定士			4
保健師			10
救急救命士			8
社会福祉主事			1
介護福祉士			1
医療安全管理者			21
養護教諭 2 種免許			1
日本 DMAT 隊員			8
大阪 DMAT 隊員			7

災害支援ナース			4
日本短期滞在外科手術研究会認定 DS コーディネーター			2
関西ストーマケア講習会修了者			3
診療情報管理士			1
リンパドレナージセラピスト			2
第一種衛生管理者			1
トリアージナース			2
腎不全療養指導士			1
周術期管理チーム認定			1
インターベーションエキスパートナース			2
糖尿病療養指導士			1
施 設:	多根総合病院	部 署:	薬剤部
資 格			人 数
抗菌化学療法認定薬剤師			3名
がん薬物療法認定薬剤師			1名
外来がん治療認定薬剤師			1名
NST専門療法士			4名
治験コーディネーター			4名
認定実務実習指導薬剤師			3名
日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師			2名
日病薬病院薬学認定薬剤師			5名
日本糖尿病療養指導士			2名
日本DMAT			1名
大阪DMAT			3名

【学会発表】

【学会発表】	施設:	総合病院	部署:	循環器内科
会名称	カテーテルアブレーション関連大会 2025			
発表テーマ	心房期外刺激法で上位共通路を診断し、不規則な AA 時間の機序を解明した非通常型房室結節エントリー性頻拍の一例			
日時	2025 年 5 月 30 日	発表者	土井淳史	
場所	沖縄県			
会名称	第 71 回日本不整脈心電学会学術大会／APHRS2025			
発表テーマ	Rare nodofascicular and nodoventricular bypass tracts inserting into superior slow pathway:Insights and diagnostic strategies from two unique supraventricular tachycardia cases			
日時	2025 年 11 月 14 日	発表者	土井淳史	
場所	横浜			

【学会発表】	施設:	総合病院	部署:	消化器内科
会名称	ESGE days 2025			
発表テーマ	Endoscopic Anti-Reflux Mucoplasty(ARMP) Using the Reopenable-Clip Over-the-Line Method(ROLM) for Patients with PPI-Refractory GERD: Case Series			
日時	2025/4/3-5	発表者	Satoshi Asai	
場所	Barcelona			
会名称	第 109 回 日本消化器内視鏡学会総会 ランチョンセミナー Boston Scientific Japan			
発表テーマ	リアルワールドデータから考える 乳頭バルーン拡張術の最適戦略			
日時	2025/5/9-11	発表者	浅井 哲	
場所	札幌			
会名称	第 109 回 日本消化器内視鏡学会総会			
発表テーマ	浸水法と UPD を用いた大腸内視鏡挿入法の教育			
日時	2025/5/9-11	発表者	浅井 哲, 中尾栄祐, 赤峰瑛介	
場所	札幌			
会名称	第 109 回 日本消化器内視鏡学会総会			
発表テーマ	Usefulness of artificial intelligence for transnasal esophagogastroduodenoscopy in clinical practice			
日時	2025/5/9-11	発表者	中尾栄祐	
場所	札幌			
会名称	第 109 回 日本消化器内視鏡学会総会			
発表テーマ	耐術能の低い後期高齢者の急性胆嚢炎に対する 超音波内視鏡下胆嚢ドレナージ術の有用性			
日時	2025/5/9-11	発表者	竹下宏太郎, 松尾健司, 浅井 哲	

場所	札幌		
会名称	第 109 回 日本消化器内視鏡学会総会		
発表テーマ	当院で経験した胃軸捻転症 7 例の検討		
日時	2025/5/9-11	発表者	橋本沙優里, 中尾栄祐, 川崎健生, 小泉 葵, 松原佳穂, 島 佳弘, 茶園歩夢, 橋村友哉, 久松健人, 藤田裕真, 大舘秀太, 松尾健司, 赤峰瑛介, 浅井 哲
場所	札幌		
会名称	第 109 回 日本消化器内視鏡学会総会		
発表テーマ	直視型コンベックスを用いた EUS 下組織採取法(EUS-TA)で診断がついた 頸部食道悪性黒色腫一例		
日時	2025/5/9-11	発表者	三好拓也, 竹下宏太郎, 川崎健生, 松原佳穂, 小泉 葵, 橋本沙優里, 島佳弘, 茶園歩夢, 久松健人, 橋村友哉, 藤田裕真, 大舘秀太, 松尾健司, 中尾栄祐, 赤峰瑛介, 浅井 哲
場所	札幌		
会名称	第 109 回 日本消化器内視鏡学会総会		
発表テーマ	限局性膵萎縮に対して連続細胞診で診断に至った浸潤性膵管癌の一例		
日時	2025/5/9-11	発表者	浅田一星, 竹下宏太郎, 川崎健生, 松原佳穂, 小泉 葵, 茶園歩夢, 久松健人, 橋村友哉, 藤田裕真, 大舘秀太, 松尾健司, 中尾栄祐, 赤峰瑛介, 浅井 哲
場所	札幌		
会名称	第 109 回 日本消化器内視鏡学会総会		
発表テーマ	NET G3 に対して ESD を施行した 1 例		
日時	2025/5/9-11	発表者	川崎健生, 浅井 哲, 小泉 葵, 松原佳穂, 茶園歩夢, 久松健人, 橋村友哉, 藤田裕真, 大舘秀太, 松尾健司,
場所	札幌		

			竹下宏太郎, 中尾栄祐, 赤峰瑛介, 森 琢児
会名称	第 109 回 日本消化器内視鏡学会総会		
発表テーマ	胃壁膿瘍として発症し診断に難渋した消化管間質腫瘍の一例		
日時	2025/5/9-11	発表者	小泉 葵, 竹下宏太郎, 川崎健生, 高 木佳穂, 橋本沙優里, 橋村友哉, 久 松健人, 大舘秀太, 松尾健司, 中尾 栄祐, 赤峰瑛介, 浅井 哲
場所	札幌		

【学会発表】	施設：総合病院 部署：消化器内科		
会名称	第 114 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会		
発表テーマ	gastroAITM model-G2 の使用経験と今後の展望 ～経鼻内視鏡観察における前向き観察研究を踏まえて～		
日時	2025/6/7	発表者	中尾栄祐
場所	京都		
会名称	Osaka IBD Conference		
発表テーマ	潰瘍性大腸炎における経口ブデソニド腸溶性徐放錠の至適症例		
日時	2025/7/2	発表者	浅井 哲
場所	大阪		
会名称	第 56 回日本膵臓学会大会		
発表テーマ	膵管ガイドワイヤー法における ERCP 後膵炎の発症に寄与する因子の 動画解析による検討		
日時	2025/7/25-26	発表者	竹下宏太郎
場所	東京		
会名称	第 56 回日本膵臓学会大会		
発表テーマ	膵被包化壊死に対する金属ステントを用いた 経皮内視鏡的ネクロセクトミーの有用性		

日時	2025/9/13	発表者	浅井 哲
場所	大阪		
会名称	第 26 回多根総合病院 開放型病院登録医総会		
発表テーマ	消化器内視鏡における縫縮・閉創技術の進歩 GERD に対する ARMS(逆流防止粘膜切除術)の成績		
日時	2025/9/13	発表者	浅井 哲
場所	大阪		
会名称	日本内科学会第 249 回近畿地方会		
発表テーマ	クローン病の治療中に粟粒結核を発症した 1 例		
日時	2025/9/20	発表者	谷口拓摩, 松尾健司, 川崎健生, 竹下宏 太郎, 中尾栄祐, 赤峰瑛介, 浅井 哲
場所	神戸		
会名称	第 6 回 ARMS/ARMA/ARMP 研究会		
発表テーマ	難治性 GERD に対する ROLM を用いた ARMP の短期成績		
日時	2025/10/4	発表者	浅井 哲
場所	東京		
会名称	大阪大腸内視鏡セミナー		
発表テーマ	【特別講演】浸水法と UPD を用いた大腸内視鏡挿入法の教育		
日時	2025/10/11	発表者	浅井 哲
場所	大阪		
会名称	第 61 回日本胆道学会学術大会		
発表テーマ	EUS 下肝管胃吻合(EUS-HGS)ルートから Rendez-vous 法を用いることで右 肝内胆管のドレナージに成功した一例		

日時	2025/10/2-3	発表者	小泉 葵, 竹下宏太郎, 浅井 哲
場所	名古屋		
会名称	JDDW 2025		
発表テーマ	Outcomes of Endoscopic Anti-Reflux Mucoplasty(ARMP) for Refractory GERD: Ulcer Closure Using the Reopenable-Clip Over-the-Line Method		
日時	2025/10/30-11/1	発表者	Satoshi Asai, Kensei Kawasaki, Sayuri Hashimoto
場所	神戸		

【学会発表】	施設：	総合病院	部署：	消化器内科
会名称	JDDW 2025			
発表テーマ	【司会】サテライトシンポジウム 69 内視鏡治療における出血・穿孔対策			
日時	2025/10/30-11/1	発表者	浅井 哲, 橋本沙優里	
場所	神戸			
会名称	第 80 回日本大腸肛門病学会学術集会			
発表テーマ	潰瘍性大腸炎における経口ブデソニド腸溶性徐放錠の有用性の検討			
日時	2025/11/14-15	発表者	浅井 哲, 橋本沙優里	
場所	東京			
会名称	第 80 回日本大腸肛門病学会学術集会			
発表テーマ	潰瘍性大腸炎に対するリサンキズマブの使用経験			
日時	2025/11/14-15	発表者	川崎健生, 竹下宏太郎, 松尾健司, 浅井 哲	
場所	大阪			
会名称	第 115 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会			

発表テーマ	経鼻内視鏡検査における AI 診断の有用性の検討		
日時	2025/11/29	発表者	橋村友哉, 中尾栄祐, 加納由貴, 赤峰瑛介, 浅井 哲
場所	大阪		
会名称	第 115 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会		
発表テーマ	下部消化管内視鏡検査で診断し得た鉤虫による出血性腸炎の 1 例		
日時	2025/11/29	発表者	山田紘河, 大舘秀太, 杉原拓実, 川崎健生, 橋本沙優里, 島 佳弘, 橋村友哉, 久松健人, 藤田裕真, 松尾健司, 加納由貴, 竹下宏太郎, 中尾栄祐, 赤峰瑛介, 浅井 哲
場所	大阪		
会名称	第 115 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会		
発表テーマ	限局性膵萎縮を認め、連続膵液細胞診で診断された膵癌の一例		
日時	2025/11/29	発表者	西村京太郎, 竹下宏太郎, 島 佳弘, 杉原拓実, 川崎健生, 小泉 葵, 橋本沙優里, 高木佳穂, 橋村友哉, 久松健人, 大舘秀太, 松尾健司, 加納由貴, 中尾栄祐, 赤峰瑛介, 浅井 哲
場所	大阪		
会名称	第 115 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会		
発表テーマ	膵被包化壊死に対して経皮内視鏡的ネクロセクトミーが有用であった一例		
日時	2025/11/29	発表者	西井聡美, 竹下宏太郎, 島 佳弘, 杉原拓実, 川崎健生, 小泉 葵, 橋本沙優里, 高木佳穂, 橋村友哉, 久松健人, 大舘秀太, 松尾健司, 加納由貴, 中尾栄祐, 赤峰瑛介, 浅井 哲
場所	大阪		
会名称	第 115 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会		
発表テーマ	食道カンジダによる良性狭窄に対して自己拡張型金属ステント(SEMS)を留置し狭窄解除しえた一例		

日時	2025/11/29	発表者	和田泰侑, 久松健人, 杉原拓実, 川崎健生, 橋本沙優里, 島 佳弘, 橋村友哉, 藤田裕真, 大舘秀太, 松尾健司, 加納由貴, 竹下宏太郎, 中尾栄祐, 赤峰瑛介, 浅井 哲
場所	大阪		
会名称	第 115 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会		
発表テーマ	Dieulafoy 潰瘍からの出血を契機に診断された胃癌の一例		
日時	2025/11/29	発表者	江口 遼, 橋村友哉, 中尾栄祐, 杉原拓実, 川崎健生, 橋本沙優里, 島 佳弘, 久松健人, 大舘秀太, 松尾健司, 加納由貴, 竹下宏太郎, 赤峰瑛介, 浅井 哲
場所	大阪		
会名称	Gastroenterology Expert Seminar		
発表テーマ	GERD に対する最新の内視鏡治療”Anti-Reflux Mucoplasty (ARMP)” ～ARMS からの進化～		
日時	2025/12/5	日時	2025/12/5
場所	大阪	場所	大阪

【学会発表】	施設:	多根総合病院	部署:	消化器内科
会名称	大腸内視鏡セミナー			
発表テーマ	【座長】			
日時	2025/12/16	発表者	浅井 哲	
場所	大阪			
会名称	日本消化病学会近畿支部第124回例会			
発表テーマ	下部消化管内視鏡施行後に急性膵炎を発症した一例の報告			

日時	2026/1/24	発表者	湖崎ケビン理, 杉原拓実, 川崎健生, 橋本紗優里, 島 佳弘, 久松健人, 橋村友哉, 大舘秀太, 松尾健司, 加納由貴, 竹下宏太郎, 中尾栄祐, 赤峰瑛介, 浅井 哲
場所	大阪		
会名称	第 22 回日本消化管学会総会学術集会(GI Week)		
発表テーマ	経鼻内視鏡検査における AI 検出支援システムの有効性に関する検討		
日時	2026/2/20-22	発表者	中尾栄祐, 浅井 哲, 橋村友哉, 加納由貴, 赤峰瑛介
場所	熊本		
会名称	第 22 回日本消化管学会総会学術集会(GI Week)		
発表テーマ	当院でのクローン病に対するリサンキズマブの使用成績		
日時	2026/2/20-22	発表者	橋本沙優里, 浅井 哲, 島 佳弘, 橋村友哉, 加納由貴, 中尾栄祐, 赤峰瑛介, 河本知樹, 大竹弘泰, 金 浩敏
場所	熊本		
会名称	第 22 回日本消化管学会総会学術集会(GI Week)		
発表テーマ	難治性 GERD に対する Reopenable-Clip Over-the-Line Method(ROLM)を用いた逆流防止粘膜形成術(ARMP)の短期成績		
日時	2026/2/20-22	発表者	浅井 哲, 橋本沙優里, 島 佳弘, 橋村友哉, 中尾栄祐, 赤峰瑛介
場所	熊本		
会名称	第 22 回日本消化管学会総会学術集会(GI Week)		

発表テーマ	S 状結腸憩室炎に伴う膿瘍を介した結腸膀胱瘻に対して 腹腔鏡下 S 状結腸切除術を施行した 1 例		
日時	2026/2/20-22	発表者	永尾祐貴, 金 浩敏, 河本知樹, 大竹弘泰, 橋本沙優里, 島 佳 弘, 橋村友哉, 加納 由貴, 中尾栄祐, 赤 峰瑛介, 浅井 哲
場所	熊本		
会名称	第 98 回日本胃癌学会総会		
発表テーマ	早期胃癌に対する PiT-ESD(Pre-incision Traction ESD:粘膜切開前牽引法)の 有効性		
日時	2026/3/4-6	発表者	中尾栄祐
場所	沖縄		
会名称	第 62 回日本腹部救急医学会総会		
発表テーマ	臍被包化壊死に対する金属ステントを用いた 経皮内視鏡的ネクロセクトミーの有用性		
日時	2026/3/12-13	発表者	小泉 葵, 竹下宏太 郎, 川崎健生, 島 佳 弘, 久松健人, 松尾 健司, 中尾栄祐, 赤 峰瑛介, 浅井 哲
場所	横浜		
会名称	第 62 回日本腹部救急医学会総会		
発表テーマ	臍周囲液体貯留への介入時期に関する検討		
日時	2026/3/12-13	発表者	川崎健生, 竹下宏太 郎, 島 佳弘, 久松健 人, 松尾健司, 中尾 栄祐, 赤峰瑛介, 浅 井 哲, 細田洋平
場所	横浜		
会名称	第 62 回日本腹部救急医学会総会		

発表テーマ	急性胆嚢炎に対する ETGBD と EUS-GBD の比較				
日時	2026/3/12-13		発表者	島 佳弘	
場所	横浜				
会名称	第 62 回日本腹部救急医学会総会				
発表テーマ	右側閉塞性大腸癌に対する大腸ステントの有用性				
日時	2026/3/12-13		発表者	久松健人, 竹下宏太郎, 川崎健生, 島 佳弘, 松尾健司, 中尾栄祐, 赤峰瑛介, 浅井 哲, 久戸瀬洋三, 金浩敏	
場所	横浜				
【学会発表】	施設:		総合病院	部署:	脳神経内科
会名称	第 66 回日本神経学会学術大会				
発表テーマ	当院に入院した Wernicke 脳症患者 31 例の臨床的特徴				
日時	2025/5/24		発表者	田中なつき、白石翔一、仲辻有佑、國方桃代、小玉大地、江並朋美、吉田智子、柳原武彦	
場所	大阪府、大阪市				
会名称	日本神経学会 第 133 回近畿地方会				
発表テーマ	硬膜生検で診断した肥厚性硬膜炎の 1 例				
日時	2026/3/1		発表者	鶴身知史、白石翔一、仲辻有佑、國方桃代、小玉大地、江並朋美、田中なつき、小川竜介、柳原武彦	
場所	大阪府、豊中市				

【学会発表】	施設:	総合病院	部署:	外科
会名称	第 657 回大阪外科集談会			
発表テーマ	胃癌術後の内ヘルニア解除術後に腸管壊死を疑い再手術を行った一例			
日時	2025/4/19	発表者	井上正一, 河本知樹, 廣部雅臣, 大竹弘泰, 福田雄介, 眞鍋裕宇, 實近侑亮, 加藤弘記, 久戸瀬洋三, 細田洋三, 金 浩敏, 土屋康紀, 西 敏夫, 小川淳宏, 森 琢児, 小川 稔, 丹羽英記	
場所	大阪			
会名称	第 47 回日本癌局所療法研究会			
発表テーマ	当院における 80 歳以上の高齢者に対する高難度肝胆膵外科手術短期成績の検討			
日時	2025/5/9	発表者	實近侑亮	
場所	幕張			
会名称	第 47 回日本癌局所療法研究会			
発表テーマ	4 針での縫合による膵管空腸粘膜吻合;簡便かつ再現性が高い再建方法			
日時	2025/5/9	発表者	今中 孝	
場所	幕張			
会名称	第 23 回日本ヘルニア学会学術集会			
発表テーマ	再発鼠径ヘルニアに対して審査腹腔鏡を行い TAIEPOM 法にて修復し得た 3 例			
日時	2025/5/22-23	発表者	土屋康紀, 實近侑亮,	

場所	盛岡		金 浩敏, 森 琢児, 小川 稔, 上村佳央, 丹羽英記
会名称	第 37 回日本肝胆膵外科学会学術集会		
発表テーマ	Primary Clear Cell Carcinoma of the Pancreas; A Rare Case Report		
日時	2025/6/13-14	発表者	Takashi Imanaka, Yohei Hosoda
場所	軽井沢		
会名称	第 80 回日本消化器外科学会総会		
発表テーマ	小腸癌切除後に診断された虫垂癌の 1 例		
日時	2025/7/16-18	発表者	實近侑亮, 小川淳宏, 加藤弘記, 久戸瀬洋 三, 細田洋三, 金 敏 弘, 森 琢児, 丹羽英 記, 小川 稔
場所	神戸		
会名称	第 75 回日本病院学会		
発表テーマ	働き方改革の中での急性期病院における労働時間短縮に向けての試み		
日時	2025/7/23-25	発表者	森 琢児, 金 浩敏, 細田洋平, 小川淳宏, 西 敏夫, 丹羽英記, 小川 稔
場所	長崎		
会名称	第 38 回サイコオンコロジー学会総会		
発表テーマ	十分な標準治療を受けないまま経過し、緩和ケア病棟に入院するも治療やケアの受け入れが難しかった発達特性を認めた二例		
日時	2025/10/10-11	発表者	柄池真規子, 石丸英 三郎, 和田健太郎
場所	沖縄		

会名称	第 19 回膵癌術前治療研究会		
発表テーマ	進行膵体部癌による閉塞性膵炎および主膵管断裂に対して術前 EPS 留置を行った後、膵体尾部切除術を施行した症例		
日時	2025/10/25	発表者	大竹弘泰, 細田洋平, 河本知樹, 廣部雅臣, 福田雄介, 實近侑亮, 加藤弘記, 松井佑起, 久戸瀬洋三, 金浩敏, 土屋康紀
場所	大阪		
会名称	第 19 回膵癌術前治療研究会		
発表テーマ	若手外科医による膵管空腸粘膜吻合における 4 針法の治療成績の検討		
日時	2025/10/25	発表者	實近侑亮, 細田洋平, 河本知樹, 廣部雅臣, 福田雄介, 大竹弘泰, 加藤弘記, 松井佑起, 久戸瀬洋三, 金浩敏, 土屋康紀
場所	大阪		
会名称	第 80 回日本大腸肛門病学会学術集会		
発表テーマ	閉塞性大腸癌に対する Bridge to Surgery(BTS)の長期成績と再発様式の検討		
日時	2025/11/14-15	発表者	久戸瀬洋三, 河本知樹, 廣部雅臣, 眞鍋裕宇, 福田雄介, 大竹弘泰, 實近侑亮, 加藤弘記, 細田洋三, 金浩敏, 土屋康紀, 西 敏夫, 小川淳宏, 森 琢児, 丹羽英記, 小川 稔
場所	東京		
会名称	第 87 回日本臨床外科学会学術集会		
発表テーマ	胃腫瘍の破裂による腹腔内出血に対して緊急手術を施行し、GIST と腺癌が混在した腫瘍と診断された 1 例		
日時	2025/11/20-22	発表者	加藤弘記, 森 琢児, 廣部

場所	東京		雅臣, 福田雄介, 實近侑亮, 久戸瀬洋三, 細田洋平, 金 浩敏, 土屋康紀, 小川淳宏, 西 敏夫, 丹羽英記, 小川 稔
会名称	第 87 回日本臨床外科学会学術集会		
発表テーマ	当院における外科医獲得のためのリクルート戦略		
日時	2025/11/20-22	発表者	森 琢児, 河本知樹, 廣部雅臣, 福田雄介, 大竹弘泰, 實近侑亮, 加藤弘記, 久戸瀬洋三, 細田洋平, 金浩敏, 土屋康紀, 西 敏夫, 小川淳宏, 小川 稔, 丹羽英記
場所	東京		
会名称	第 87 回日本臨床外科学会学術集会		
発表テーマ	膵炎後の被包化膵壊死(WON)に伴う大腸穿孔に対して外科的治療を行った症例		
日時	2025/11/20-22	発表者	廣部雅臣, 細田洋平, 河本知樹, 大竹弘泰, 福田雄介, 實近侑亮, 加藤弘記, 久戸瀬洋三, 金 浩敏, 土屋康紀, 森 琢児, 小川淳宏, 西 敏夫, 丹羽英記, 小川 稔
場所	東京		
会名称	第 87 回日本臨床外科学会学術集会		
発表テーマ	腸管膜動脈瘤破裂に対してコイル塞栓術後に腸管壊死を来した一例		
日時	2025/11/20-22	発表者	河本知樹, 金 浩敏, 小川淳宏, 廣部雅臣, 福田雄介, 眞鍋裕宇, 實近侑亮, 加藤弘記, 久戸瀬洋三, 土屋康紀, 細田洋平, 森 琢児, 小川 稔, 西 敏夫,
場所	東京		

			丹羽英記
会名称	第 38 回日本内視鏡外科学会総会		
発表テーマ	当科でのロボット導入に伴う鏡視下中下部直腸癌手術における術後縫合不全リスク因子の検討		
日時	2025/12/11-13	発表者	實近侑亮, 久戸瀬洋三, 細田洋平, 金 浩敏, 土屋康紀, 森 琢児, 小川 稔, 丹羽英記, 小川淳宏
場所	横浜		
会名称	第 38 回日本内視鏡外科学会総会		
発表テーマ	早期膵体部癌と診断し、超高齢であるため縮小手術(腹腔鏡下脾動静脈温存膵体尾部切除術)を施行した一例		
日時	2025/12/11-13	発表者	大竹弘泰, 久戸瀬洋三, 實近侑亮, 細田洋平, 金 浩敏, 土屋康紀, 森 琢児, 小川 稔, 丹羽英記, 小川淳宏
場所	横浜		
会名称	第 22 回日本消化管学会総会学術集会(GI Week)		
発表テーマ	初発から 9 年後にメッケル憩室出血を再発した 1 例		
日時	2026/2/20-22	発表者	河本知樹, 金 浩敏, 廣部雅臣, 大竹弘泰, 福田雄介, 加藤弘記, 松井佑起, 久戸瀬洋三, 細田洋平, 土屋康紀, 森 琢児, 小川淳宏, 西 敏夫, 丹羽英記, 小川 稔
場所	熊本		
会名称	第 22 回日本消化管学会総会学術集会(GI Week)		
発表テーマ	S 状結腸憩室炎に伴う膿瘍を介した結腸膀胱瘻に対して腹腔鏡下 S 状結腸切除術を施行した 1 例		

日時	2026/2/20-22	発表者	永尾祐貴, 金 浩敏, 河本知樹, 大竹弘泰, 橋本沙優里, 島 佳弘, 橋村友哉, 加納由貴, 中尾栄祐, 赤峰瑛介, 浅井 哲
場所	熊本		
会名称	第 98 回日本胃癌学会総会		
発表テーマ	当院における 85 歳以上の高齢者胃癌に対する手術症例の検討		
日時	2026/3/4-6	発表者	加藤弘記, 森 琢児, 河本知樹, 廣部雅臣, 福田雄介, 大竹弘泰, 實近侑亮, 久戸瀬洋三, 土屋康紀, 細田洋平, 金 浩敏, 小川淳宏, 西 敏夫, 丹羽英記, 小川 稔
場所	沖縄		
会名称	第 98 回日本胃癌学会総会		
発表テーマ	当院にて切除不能、再発胃癌に対して手術と免疫チェックポイント阻害薬を含めた薬物療法にて長期生存している 2 症例		
日時	2026/3/4-6	発表者	廣部雅臣, 森 琢児, 河本知樹, 福田雄介, 大竹弘泰, 實近侑亮, 加藤弘記, 久戸瀬洋三, 細田洋平, 金浩敏, 土屋康紀, 小川淳宏, 西 敏夫, 丹羽英記, 小川 稔
場所	沖縄		
会名称	第 62 回日本腹部救急医学会総会		
発表テーマ	当院における急性胆嚢炎の治療戦略と成績について -TG18 に基づいた後方視的評価-		
日時	2026/3/12-13	発表者	大竹弘泰, 細田洋平, 河本知樹, 廣部雅臣, 福田雄介, 實近侑亮, 加藤弘記, 松井佑起, 久戸瀬洋三, 金浩敏, 土屋康紀, 森 琢児, 小川淳宏, 西 敏夫, 小川
場所	横浜		

			稔
会名称	第 62 回日本腹部救急医学会総会		
発表テーマ	左側大腸穿孔に対する一期的吻合の治療成績と安全性の検討		
日時	2026/3/12-13	発表者	久戸瀬洋三, 大竹弘泰, 實近侑亮, 松井佑起, 細田洋平, 金 浩敏
場所	横浜		
会名称	第 62 回日本腹部救急医学会総会		
発表テーマ	肝胆膵領域における肝動脈再建の必要性の是非		
日時	2026/3/12-13	発表者	松井佑起, 細田洋平, 河本知樹, 廣部雅臣, 大竹弘泰, 福田雄介, 實近侑亮, 加藤弘記, 久戸瀬洋三, 金浩敏, 土屋康紀, 森 琢児, 小川淳宏, 西 敏夫, 小川稔
場所	横浜		
会名称	第 62 回日本腹部救急医学会総会		
発表テーマ	脾周囲液体貯留への介入時期に関する検討		
日時	2026/3/12-13	発表者	川崎健生, 竹下宏太郎, 島佳弘, 久松健人, 松尾健司, 中尾栄祐, 赤峰瑛介, 浅井 哲, 細田洋平
場所	横浜		
会名称	第 62 回日本腹部救急医学会総会		
発表テーマ	右側閉塞性大腸癌に対する大腸ステントの有用性		
日時	2026/3/12-13	発表者	久松健人, 竹下宏太郎, 川崎健生, 島 佳弘, 松尾健
場所	横浜		

			司, 中尾栄祐, 赤峰瑛介, 浅井 哲, 久戸瀬洋三, 金 浩敏	
【学会発表】	施設:	多根総合病 院	部署:	緩和医療科
会名称	大阪緩和ケア連携カンファレンス			
発表テーマ	「緩和領域におけるジクトルテープの役割」 ～緩和ケア病棟を中心に～			
日時	2025/5/20	発表者	石丸 英三郎	
場所	久光製薬大阪支店			
会名称	第 30 回日本緩和医療学会学術大会			
発表テーマ	放射線治療医の積極的介入による緩和的放射線治療件数の検討			
日時	2025/7/5	発表者	石丸 英三郎	
場所	福岡国際会議場			
会名称	JCHO 大阪病院 PEACE 緩和ケア研修会			
発表テーマ	PEACE プロジェクトの緩和ケア研修			
日時	2025/7/19	発表者	石丸 英三郎	
場所	JCHO 大阪病院			
会名称	多根総合病院 PEACE 緩和ケア研修会			
発表テーマ	PEACE プロジェクトの緩和ケア研修			
日時	2026/2/14	発表者	石丸 英三郎	
場所	多根総合病院			
会名称	放射線腫瘍学会主催 医学生・研修医のための放射線治療セミナー			
発表テーマ	放射線治療×緩和医療:緩和照射で何ができる？			

日時	2025/5/10	発表者	和田 健太郎	
場所	オンライン			
会名称	第 30 回日本緩和医療学会学術大会			
発表テーマ	緩和面談時における緩和的放射線治療の潜在的適応患者の検討			
日時	2025/7/5	発表者	和田 健太郎	
場所	福岡国際会議場			
会名称	第 26 回多根総合病院開放型病院登録医総会			
発表テーマ	多根総合病院緩和医療科の現在地			
日時	2025/9/13	発表者	和田 健太郎	
場所	ホテル日航大阪			
会名称	東住吉緩和ケア病棟連携カンファレンス			
発表テーマ	緩和的放射線治療 Update			
日時	2025/9/26	発表者	和田 健太郎	
場所	東住吉森本病院			
会名称	多根総合病院 PEACE 緩和ケア研修会			
発表テーマ	PEACE プロジェクトの緩和ケア研修			
日時	2026/2/14	発表者	和田 健太郎	
場所	多根総合病院			
【学会発表】	施設:	多根総合病院	部署:	整形外科
会名称	第 53 回日本関節病学会			
発表テーマ	上腕骨小頭離断性骨軟骨炎に対する鏡視下病巣搔爬術の治療成績			

日時	2025/07/4-5	発表者	永井宏和 山崎哲也 中井将人 今井晋二		
場所	京都府				
会名称	第 24 回肩と肘を語る会				
発表テーマ	肩関節後方脱臼の苦い経験				
日時	2025/7/26	発表者	永井宏和		
場所	京都府				
会名称	第 52 回日本肩関節学会学術集会				
発表テーマ	上腕骨近位端骨折に対する関節鏡下髄内釘固定術の治療成績				
日時	2025/10/10-11	発表者	永井宏和 中島亮 米田真悟 藤原圭 城内泰造 梅田康平 山田智輝 今井晋二		
場所	福岡県				
会名称	第 52 回日本肩関節学会学術集会				
発表テーマ	高齢者の上腕骨近位端骨折に対する RSA の治療成績				
日時	2025/10/10-11	発表者	永井宏和 中島亮 米田真悟 藤原圭 城内泰造 梅田康平 山田智輝 今井晋二		
場所	福岡県				
会名称	第 41 回 SUMS 骨・関節懇話会				
発表テーマ	骨折手術に関連した医原性橈骨神経傷害の 4 例				
日時	2026/3/28	発表者	田村 翔		
場所	京都府				
【学会発表】	施設:		多根総合病院	部署:	脳神経外科
会名称	第 39 回日本神経救急学会学術集会				

発表テーマ	JRC 蘇生ガイドライン 2025 における脳卒中領域の推奨作成: 嚢腫冠動脈閉塞スケールの診断性能とくも膜下出血の血圧管理について		
日時	2025/7/6	発表者	小畑仁司、岡田遥平、山上宏、早川幹人、吉本武史、鈴木秀鷹、藤堂謙一、中江竜太、近藤豊、横堀将司
場所	東京都		
会名称	第 39 回日本神経救急学会学術集会		
発表テーマ	くも膜下出血における来院時血圧と再出血および転帰との関係		
日時	2025/7/6	発表者	小畑仁司
場所	東京都		
会名称	第 33 回日本意識障害学会総会・学術集会		
発表テーマ	急性期意識障害の評価法		
日時	2025/9/6～9/7	発表者	小畑仁司
場所	東京都		
会名称	Neurocritical Care Society 23rd Annual Meeting		
発表テーマ	Association Between Blood Pressure on Arrival and Rebleeding, Functional Outcomes, and Mortality in Patients with Subarachnoid Hemorrhage		
日時	2025/9/18～9/21	発表者	小畑仁司
場所	Quebec, Canada		
会名称	日本脳神経外科学会第 84 回学術総会		
発表テーマ	内視鏡下脳内血腫除去術におけるフルリアルタイムナビゲーションの有用性		
日時	2025/10/29～11/1	発表者	三木義仁
場所	神奈川県、横浜市		
会名称	第 31 回日本脳神経外科救急学会		

発表テーマ	最重症くも膜下出血患者に対する High-quality targeted temperature managment			
日時	2026/2/27～2/28	発表者	小畑仁司	
場所	広島県、広島市			
【学会発表】	施設:	多根総合病院	部署:	泌尿器科
会名称	第 112 回日本泌尿器科学会総会			
発表テーマ	The impact of stone volume stratified by CT attenuation value for predicting ESWL outcomes in patient with ureteral stone.			
日時	2025/4/19	発表者	飯田孝太、林 百合子、朝田一輝、伊丹祥隆、細川幸成、藤本清秀	
場所	福岡市			
会名称	第 112 回日本泌尿器科学会総会			
発表テーマ	Clinical evaluation of stone culture examination for TUL.			
日時	2025/4/19	発表者	伊丹祥隆、林 百合子、朝田一輝、飯田孝太、細川幸成、藤本清秀	
場所	福岡市			
会名称	第 259 回日本泌尿器科学会関西地方会			
発表テーマ	筋層浸潤性膀胱癌術後ニボルマブ投与中に発症したリウマチ性多発筋痛症の 1 例			
日時	2025/5/31	発表者	林 百合子、飯田孝太、朝田一輝、伊丹祥隆、細川幸成、藤本清秀	
場所	大阪市			
会名称	第 34 回日本尿路結石症学会			
発表テーマ	術者経験年数が fTUL における手術成績と合併症に及ぼす影響			

日時	2025/8/29	発表者	伊丹祥隆、林 百合子、成田光輔、飯田孝太、細川幸成、藤本清秀		
場所	東京				
会名称	第 34 回日本尿路結石症学会				
発表テーマ	CT 値層別化体積を用いた尿管結石に対する ESWL の治療効果予測因子について検討				
日時	2025/8/29	発表者	飯田孝太、朝田一輝、市居大季、伊丹祥隆、細川幸成、藤本清秀		
場所	東京				
会名称	第 39 回日本泌尿器内視鏡学会総会				
発表テーマ	転移性尿管癌に対しエンホルツマブベドチン、ペムブロリズマブ併用療法中に発症した腫瘍崩壊症候群の 1 例				
日時	2025/10/4	発表者	藤本尊秀、飯田孝太、林 百合子、成田光輔、伊丹祥隆、細川幸成、藤本清秀		
場所	豊中市				
会名称	第 39 回日本泌尿器内視鏡学会総会				
発表テーマ	10mm 以上の腎結石に対する Single use 軟性尿管鏡を用いた fTUL の検討				
日時	2025/10/31	発表者	伊丹祥隆、成田光輔、林 百合子、飯田孝太、細川幸成、藤本清秀		
場所	東京				
会名称	第 75 回日本泌尿器科学会中部総会				
発表テーマ	当院における Mycoplasma genitalium 尿道炎の臨床的検討				
日時	2025/11/8	発表者	成田光輔、伊丹祥隆、林 百合子、飯田孝太、細川幸成、藤本清秀		
場所	神戸市				
【学会発表】	施設：	多根総合病院	部署：	皮膚科	
会名称	日本皮膚科学会第 512 回大阪地方会				

発表テーマ	口蓋扁桃摘出術時に開口障害を来した咀嚼筋腱・腱膜過形成症の1例			
日時	2025/12/13	発表者	涌井創一郎、中井大介	
場所	大阪府、大阪市			
【学会発表】	施設:	多根総合病院	部署:	耳鼻咽喉科
会名称	第37回日本頭蓋底外科学会			
発表テーマ	経鼻内視鏡手術を行った線維性骨異形成症症例			
日時	2025/6/19～6/20	発表者	天津久郎、石橋謙一、佐々木強	
場所	出島メッセ長崎(長崎県長崎市)			
会名称	第37回日本頭蓋底外科学会			
発表テーマ	トルコ鞍部近傍病変に対する4-hands経鼻内視鏡手術導入時の課題およびその対策			
日時	2025/6/19～6/20	発表者	石橋謙一、西嶋脩悟、佐々木強、平元路生、仲嶺滯、須藤貴人、天津久郎、山中一浩、後藤剛夫	
場所	出島メッセ長崎(長崎県長崎市)			
会名称	第87回耳鼻咽喉科臨床学会総会			
発表テーマ	内視鏡下アデノイド切除術を施行した19例の検討			
日時	2025/6/26～6/27	発表者	平山靖子	
場所	奈良県コンベンションセンター(奈良県奈良市)			
会名称	第64回日本鼻科学会総会・学術講演会			
発表テーマ	経鼻内視鏡手術における縫合手技の有用性			

日時	2025/9/25～9/27	発表者	天津久郎、平山靖子、 須藤貴人、石橋謙一
場所	東京ドームホテル(東京都)		
会名称	第 64 回日本鼻科学会総会・学術講演会		
発表テーマ	耳鼻咽喉科医が下垂体・傍鞍部腫瘍に対する eTSS に関する意義		
日時	2025/9/25～9/27	発表者	天津久郎、石橋謙一、 須藤貴人、平山靖子
場所	東京ドームホテル(東京都)		
会名称	第 64 回日本鼻科学会総会・学術講演会		
発表テーマ	メポリズマブ投与中に診断が困難であったが、デュピルマブへの変更後に好酸球性副鼻腔炎の診断に至った一例		
日時	2025/9/25～9/27	発表者	平山靖子
場所	東京ドームホテル(東京都)		
会名称	関西鼻科学を語る会		
発表テーマ	ESS に有効な縫合技術		
日時	2025/11/1	発表者	天津久郎
場所	大阪大学中之島センター(大阪府大阪市)		
会名称	第 32 回日本神経内視鏡学会		
発表テーマ	経鼻内視鏡頭蓋底手術における耳鼻咽喉科医の役割		
日時	2025/11/13～11/14	発表者	天津久郎
場所	大宮ソニックシティ(埼玉県さいたま市)		
会名称	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会大阪地方連合会 第 372 回例会		
発表テーマ	デュピルマブを導入した CRSwNP における末梢血好酸球の推移の検討		

日時	2026/1/31	発表者	衣笠竜成、天津久郎、 平山靖子
場所	大阪大学中之島センター(大阪府大阪市)		

【学会発表】	施設:	総合病院	部署:	形成外科
会名称	第 138 回関西形成外科学会学術集会			
発表テーマ	嚥下動作に同期して陥凹を生じる頸部術後瘢痕に対して,Dermal fat flap と Perifascial Areolar Tissue(PAT)の併用が有効であった 1 例			
日時	2025/7/5	発表者	鈴木 里咲	
場所	大阪			

【学会発表】	施設:	総合病院	部署:	放射線診断部
会名称	令和 7 年度近畿地域診療放射線技師会学術大会			
発表テーマ	「シンポジウム」 告示研修完遂！静脈穿刺してはりますか？			
日時	2026 年 2 月 15 日	発表者	高木 正之	
場所	京都			

【学会発表】	施設:	多根総合病院	部署:	放射線治療科
会名称	放射線治療かたろう会第 59 回 わかば会			
発表テーマ	セットアップについて			
日時	2025 年 6 月 22 日	発表者	中坂 優太	
場所	多根総合病院			
会名称	令和 7 年度大放技・大臨技合同フォーラム			
発表テーマ	放射線治療の最新技術 ―高精度の裏側―			

日時	2026年1月17日	発表者	中原 隆太
場所	大阪府		

【学会発表】	施設:	多根総合病院	部署:	救急科
会名称	第 131 回近畿救急医学研究会(日本救急医学会近畿地方会)			
発表テーマ	痙攣を契機に搬送され Torsades de pointes を認めた1例			
日時	2026/2/23	発表者	升井淳	
場所	京都府			
会名称	第 131 回近畿救急医学研究会(日本救急医学会近畿地方会)			
発表テーマ	Pseudomonas mendocina による菌血症の1例			
日時	2026/2/23	発表者	升井淳	
場所	京都府			
会名称	第 53 回日本集中治療医学会学術集会			
発表テーマ	小児軽症頭部外傷例における頭部 CT 適応の判断基準に関する妥当性評価			
日時	2026/3/5	発表者	升井淳	
場所	神奈川県			
会名称	第 31 回日本災害医学会総会・学術集会			
発表テーマ	令和6年能登半島地震 DMAT4次隊派遣において経験した広域避難の受け入れとその課題			
日時	2026/3/20	発表者	柳英雄	
場所	新潟県			

【学会発表】	施設:	多根総合病院	部署:	腫瘍内科
会名称	第23回日本臨床腫瘍学会学術集会			

発表テーマ	がん薬物治療に関するトレーシングレポート活用の現状と課題 ～保険薬局薬剤師へのアンケート調査より～		
日時	2026 年 3 月 26 日～28 日	発表者	其田学士、岩井裕香、森本明美、岡田佳也
場所	パシフィコ横浜・ノース展示ホール D		
会名称	第 23 回日本臨床腫瘍学会学術集会		
発表テーマ	薬剤師による医師診察前面談により皮膚障害の早期対応と治療継続につながった一例		
日時	2026 年 3 月 26 日～28 日	発表者	岩井裕香、其田学士、久寶麻衣子、森本明美、岡田佳也
場所	パシフィコ横浜・ノース展示ホール D		
会名称	第 23 回日本臨床腫瘍学会学術集会		
発表テーマ	当院における Zolbetuximab 投与管理の PDCA サイクルについて		
日時	2026 年 3 月 26 日～28 日	発表者	久寶麻衣子、岡田佳也、岩井裕香、其田学士、植村未奈子
場所	パシフィコ横浜・ノース展示ホール D		
会名称	第 23 回日本臨床腫瘍学会学術集会		
発表テーマ	A Case of Elderly ED-SCLC with Brain Metastasis Achieving Long-term Control with Atezolizumab-containing Chemotherapy		
日時	2026 年 3 月 26 日～28 日	発表者	Kosuke Ueda, Saya Kitashiro, Takashi Sonoda, Yoshinari Okada
場所	パシフィコ横浜・ノース展示ホール D		
会名称	第 23 回日本臨床腫瘍学会学術集会		
発表テーマ	A Case of Breast cancer with Polymyalgia Rheumatica During Paclitaxel		
日時	2026 年 3 月 26 日～28 日	発表者	Ayaka Ogaki, Yoshinari Okada
場所	パシフィコ横浜・ノース展示ホール D		

会名称	第 7 回日本緩和医療学会関西支部学術大会		
発表テーマ	がん性潰瘍の臭気にメトロニダゾール内服錠懸濁液が有効であった 1 事例		
日時	2025/9/20	発表者	大浜布由、安達早希、和田健太郎、森本明美、植村未奈子、岡田佳也、柄池真規子、吉田絵里、石丸英三郎
場所	ラッセホール(兵庫県神戸市)		

【学会発表】	施設:	多根総合病院	部署:	看護部
会名称	日本緩和医療学会関西支部学術集会			
発表テーマ	『がん性潰瘍の臭気にメトロニダゾール内服錠懸濁液が有効であった 1 事例			
日時	2025/9/20	発表者	大浜 布由	
場所	ラッセホール			
会名称	大阪病院学会			
発表テーマ	特定行為看護師の実践力向上を目指した当院の取り組み～特定行為の依頼方法の整備とレベル評価制度の導入～			
日時	2025/11/9	発表者	宮崎 悠	
場所	大阪国際会議場			
会名称	第 25 回 KHS コンベンション			
発表テーマ	特定行為看護師の実践力向上を目指した当院の取り組み～特定行為の依頼方法の整備とレベル評価制度の導入～			
日時	2025/12/13	発表者	宮崎 悠	
場所	グランドプリンスホテル大阪バイ			
会名称	第 25 回 KHS コンベンション			
発表テーマ	前立腺全摘術からの看護介入の必要性			

日時	2025/12/13	発表者	藤井 愛子
場所	グランドプリンスホテル大阪ベイ		
会名称	日本脳神経看護学会関西地方部研修会		
発表テーマ	脳卒中リハビリテーション認定看護師による高齢者患者への食事支援		
日時	2025/11/29	発表者	應本 勝美
場所	大阪産業創造館		
会名称	STROKE2026		
発表テーマ	院内卒中に関する出前勉強会 FASTとELVOスクリーンを用いた20分の勉強会と診療体制の整備		
日時	2026/3/14	発表者	應本 勝美
場所	グランキューブ大阪		
会名称	第23回日本臨床腫瘍学会学術集会		
発表テーマ	当院におけるZolbetuximab投与管理のPDCAサイクルについて		
日時	2026/3/26	発表者	久寶 麻衣子
場所	パシフィコ横浜ノース		

【学会発表】	施設:総合病院	総合病院	部署:	薬剤部
会名称	第23回日本臨床腫瘍学会学術集会			
発表テーマ	がん薬物治療に関するトレーシングレポート活用の現状と課題 ～保険薬局薬剤師へのアンケート調査により～			
日時	2026年3月26日～28日	発表者	其田 学士、岩井 裕香、 森本 明美、岡田 佳也	
場所	パシフィコ横浜			
会名称	第23回日本臨床腫瘍学会学術集会			
発表テーマ	薬剤師による医師診察前面談により皮膚障害の早期対応と治療継続につながった一例			

日時	2026年3月 26 日～28日	発表者	岩井 裕香、其田 学士、久寶麻衣子 森本 明美、岡田 佳也
場所	パシフィコ横浜		
会名称	第 31 回 災害医学会		
発表テーマ	災害処方せんの記載演習から見てきた平時の課題		
日時	2026 年 3 月 19 日～21 日	発表者	岩井 裕香、柳 英雄
場所	朱鷺メッセ		

【学会発表】	施設：	総合病院	部署：	栄養管理部門
会名称	日本病態栄養学会			
発表テーマ	長期輸液管理による汎血球減少症を契機に栄養管理計画を再評価した1例			
日時	2026/1/31	発表者	山本 啓太	
場所	京都国際会館			
会名称	日本栄養治療学会			
発表テーマ	当院 HCU における早期栄養介入加算の現状と課題			
日時	2026/2/13	発表者	山本 啓太	
場所	パシフィコ横浜			

【学会発表】	施設：	多根総合病院	部署：	医療技術部 中央検査部門
会名称	第 74 回医学検査学会			
発表テーマ	聴覚症状を主訴に受診し VEMP により上半規管裂隙症候群と診断しえた 1 例			
日時	2025/5/10	発表者	大下真由美	
場所	グランキューブ大阪			

会名称	第 74 回医学検査学会		
発表テーマ	当院における生理機能検査のパニック値報告について、予期しない亜急性心筋梗塞を発見しえた 1 例		
日時	2025/5/10	発表者	大島愛莉
場所	グランキューブ大阪		
会名称	第 50 回日本超音波検査学会学術集会		
発表テーマ	頸部放射線治療後に総頸動脈狭窄を認めた 1 例		
日時	2025/6/14	発表者	大下真由美
場所	パシフィコ横浜ノース		

【学会発表】	施設：	多根総合病院	部署：	卒後臨床研修センター
会名称	第 657 回大阪外科集談会			
発表テーマ	胃癌術後の内ヘルニア解除術後に腸管壊死を疑い再手術を行った一例			
日時	2025 年 4 月 19 日	発表者	井上 正一	
場所	大阪大学中之島センター			
会名称	第 109 回日本消化器内視鏡学会総会			
発表テーマ	直視型コンバックスを用いた EUS 下組織採取法(EUS-TA)で診断がついた頸部食道悪性黒色腫の一例			
日時	2025 年 5 月 10 日	発表者	三好 拓也	
場所	札幌市教育文化会館			
会名称	第 109 回日本消化器内視鏡学会総会			
発表テーマ	限局性膵萎縮に対して連続細胞診で診断に至った浸潤性膵管癌の一例			

日時	2025 年 5 月 9 日-11 日	発表者	浅田 一星
場所	札幌市教育文化会館		
会名称	日本内科学会 第 249 回近畿地方会		
発表テーマ	クローン病の治療中に粟粒結核を発症した 1 例		
日時	2025 年 9 月 20 日	発表者	谷口 拓磨
場所	神戸国際会議場		
会名称	第 260 回日本泌尿器科学会関西地方会		
発表テーマ	転移性尿管癌に対しエンホルツマブベドチン、ペムブロリズマブ併用療法中に発症した腫瘍崩壊症候群の1例		
日時	2025 年 10 月 4 日	発表者	藤本 尊秀
場所	千里ライフサイエンスセンター		
会名称	第 88 回日本脳神経外科学会 近畿支部学術集会		
発表テーマ	保存的加療中に瘤形成を来たしクリッピング術を施工した出血発症の前大脳動脈解離性病変の一例		
日時	2025 年 10 月 11 日	発表者	中田 和希
場所	千里ライフサイエンスセンター		
会名称	第 115 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会		
発表テーマ	膵被包化壊死に対して経皮内視鏡的ネクロセクトミーが有用であった一例		
日時	2025 年 11 月 29 日	発表者	西井 聡美
場所	大阪国際交流センター		
会名称	第 115 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会		
発表テーマ	限局性膵萎縮を認め、連続膵液細胞診で診断された膵癌の一例		

日時	2025 年 11 月 29 日	発表者	西村 京太郎
場所	大阪国際交流センター		
会名称	第 115 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会		
発表テーマ	下部消化管内視鏡検査で診断し得た鉤虫による出血性腸炎の 1 例		
日時	2025 年 11 月 29 日	発表者	山田 紘河
場所	大阪国際交流センター		
会名称	第 115 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会		
発表テーマ	食道カンジダによる良性狭窄に対して自己拡張型金属ステント(SEMS)を留置し狭窄解除しえた一例		
日時	2025 年 11 月 29 日	発表者	和田 泰侑
場所	大阪国際交流センター		
会名称	第 512 回日本皮膚科学会大阪地方会		
発表テーマ	帯状疱疹後に生じた偽性腹壁ヘルニアの 3 例		
日時	2025 年 12 月 13 日	発表者	涌井 創一郎
場所	オービックホール		
会名称	第 115 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会		
発表テーマ	Dieulafoy 潰瘍からの出血を契機に診断された胃癌の一例		
日時	2025 年 11 月 29 日	発表者	江口 遼
場所	大阪国際交流センター		
会名称	日本消化器病学会 近畿支部第 124 回例会		
発表テーマ	下部消化管内視鏡施行後に急性膵炎を発症した一例の報告		

日時	2026 年 1 月 24 日	発表者	湖崎 ケビン 理
場所	大阪国際交流センター		
会名称	第 22 回日本消化管学会総会学術集会		
発表テーマ	S 状結腸憩室炎に伴う膿瘍を介した結腸膀胱瘻に対して腹腔鏡下 S 状結腸切除術を施行した 1 例		
日時	2026 年 2 月 20 日-22 日	発表者	永尾 祐貴
場所	熊本城ホール		
会名称	第 131 回近畿救急医学研究会(日本救急医学会近畿地方会)		
発表テーマ	痙攣を契機に搬送され Torsades de pointes を認めた 1 例		
日時	2026 年 2 月 23 日	発表者	立花 成寛
場所	京都テルサ		
会名称	第 131 回近畿救急医学研究会(日本救急医学会近畿地方会)		
発表テーマ	Pseudomonas mendocina による菌血症の 1 例		
日時	2026 年 2 月 23 日	発表者	三好 拓也
場所	京都テルサ		
会名称	日本神経学会 第 133 回近畿地方会		
発表テーマ	硬膜生検で診断した肥厚性硬膜炎の 1 例		
日時	2026 年 3 月 1 日	発表者	鶴身 知史
場所	千里ライフサイエンスセンター		
会名称	第 62 回日本腹部救急医学会総会		
発表テーマ	憩室内結石を伴った十二指腸上行脚の十二指腸憩室穿孔の 1 手術例		

日時	2026 年 3 月 12 日-13 日	発表者	山口 瑛大
場所	パシフィコ横浜		
会名称	第 23 回日本臨床腫瘍学会学術集会		
発表テーマ	脳転移から診断された進展型肺小細胞癌に対して Atezolizumab 併用化学療法が奏功し、長期生存を得られた一例		
日時	2026 年 3 月 26 日-28 日	発表者	上田 康介
場所	パシフィコ横浜		
会名称	第 23 回日本臨床腫瘍学会学術集会		
発表テーマ	Pseudomonas mendocina による菌血症の 1 例		
日時	2026 年 3 月 26 日-28 日	発表者	大垣 彩佳
場所	パシフィコ横浜		

【執筆・論文】	施設:	総合病院	部署:	循環器内科
掲載誌名	Circulation Reports			
執筆・論文 タイトル	Ratioale and Design of the ESPIAL Trial- A Prospective,Randomized,Exploratory Study to Evaluate the Effect of Esaxerenone on Reduction of Urinary Albumin to Creatinine Ratio in Hypertensive Patients Concomitant With Heart Failure and Albuminuria			
著者	S.Suna,Y.Matsumoto,T.Kawar abayashi 他	掲載号 掲載年等	2025 Volume 7 Issue9 826-831	
【執筆・論文】	施設:	総合病院	部署:	消化器内科
掲載誌名	日本腹部救急医学会雑誌			
執筆・論文 タイトル	診断に苦慮した右肝動脈瘤破裂による胆嚢出血の 1 例			
著者	島 佳弘, 浅井 哲, 川崎健生, 小泉 葵, 久松健人, 藤田裕真, 松尾健司, 竹下宏太郎, 赤峰瑛介, 實近侑亮, 細田洋平	掲載号 掲載年等	DOI:10.11231/jaem.45.4 98 45(5), 498-502, 2025	
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌			

執筆・論文 タイトル	内視鏡的ドレナージが奏功した外傷性膵損傷の1例		
著者	宮尾哉希, 松尾健司, 藤本直己, 小泉葵, 橋本沙優里, 松原佳穂, 今中 孝, 島 佳弘, 橋村友哉, 大舘秀太, 神保仁美, 竹下宏太郎, 中尾栄祐, 一ノ名巧, 赤峰瑛介, 浅井 哲, 細田洋平	掲載号 掲載年等	13(1), 61-64, 2025
掲載誌名	Digestive Endoscopy		
執筆・論文 タイトル	EUS-Guided Hepaticogastrostomy With a Right-to-Left Hepatic Duct Bridging Stent for Refractory Mucin Plug Cholangitis Caused by an Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm-Related Pancreatobiliary Fistula		
著者	Kotaro Takeshita, Satoshi Asai, Takeshi Ogura	掲載号 掲載年等	DOI:10.1111/den.70143 2026.3

【執筆・論文】	施設:	総合病院	部署:	脳神経内科
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌			
執筆・論文 タイトル	当院に入院した Wernicke 脳症 31 例の臨床的特徴			
著者	田中なつき、白石翔一、仲辻有佑、國方桃代、小玉大地、江並朋美、吉田智子、柳原武彦	掲載号 掲載年等	第14巻 第1号 p7 2026/3	
【執筆・論文】	施設:	総合病院	部署:	外科
掲載誌名	Annals of Gastroenterological Surgery			
執筆・論文 タイトル	Effectiveness of advanced dressings in preventing surgical site infections compared to that of standard dressings in gastrointestinal surgery: A systematic review and meta-analysis			

	for guideline revision by the		
著者	Keita Kouzu, Hironori Tsujimoto, Seiichi Shinji, Hiroji Shinkawa, Koji Tamura, Yukio Sato, Koji Munakata, Yasunari Fukuda, Daisuke Koike, Hiromu Miyake, Yohei Hosoda, et al.	掲載号 掲載年等	DOI:10.1002/ags3.12909 1-10, 2025
掲載誌名	日本内視鏡外科学会		
執筆・論文 タイトル	腹腔鏡下手術後の遅発性下腹壁動脈出血に対し血管内治療が奏効した 1 例		
著者	實近侑亮, 小川淳宏, 久戸瀬洋三, 細田洋平, 小川 稔, 丹羽英記	掲載号 掲載年等	30(3), 151-156, 2025
掲載誌名	日本腹部救急医学会雑誌		
執筆・論文 タイトル	診断に苦慮した右肝動脈瘤破裂による胆嚢出血の 1 例		
著者	島 佳弘, 浅井 哲, 川崎健生, 小泉 葵, 久松健人, 藤田裕真, 松尾健司, 竹下宏太郎, 赤峰瑛介, 實近侑亮, 細田洋平	掲載号 掲載年等	DOI:10.11231/jaem.45.498 45(5), 498-502, 2025
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌		
執筆・論文 タイトル	緊急輸血を要する重症外傷症例に対する急速輸液加温システム(レベル 1R システム 1000)使用の検討		
著者	松井佑起, 松浦裕司, 信藤麻友, 緒方晶子, 高橋佳仁, 三隅史郎, 鉢嶺将明, 中川淳一郎, 日野裕志, 藤野	掲載号 掲載	13(1), 3-8, 2025

	和浩, 岸本正文	年等	
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌		
執筆・論文 タイトル	胆嚢ポリープ術前精査中に急性胆嚢炎を発症し,腹腔鏡下胆嚢摘出術後に胆嚢癌と診断された 1 例		
著者	大竹弘泰, 細田洋平, 福田雄介, 今中 孝, 實近侑亮, 小澤慎太郎, 林田一真, 加藤弘記, 森 琢児, 小川 稔, 小川淳宏, 上村佳央, 西 敏夫, 丹羽英記	掲載号 掲載年等	13(1), 49-53, 2025
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌		
執筆・論文 タイトル	大量腹水を伴う大網原発 GIST に対する 1 手術症例		
著者	秦泉寺皓晟, 加藤弘記, 小川淳宏, 廣部雅臣, 大竹弘泰, 福田雄介, 今中 孝, 實近侑亮, 林田一真, 久戸瀬洋三, 細田洋平, 金 浩敏, 土屋康紀, 森 琢児, 上村佳央, 西 敏夫, 丹羽英記, 吉原 渡, 小川 稔	掲載号 掲載年等	13(1), 55-59, 2025
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌		
執筆・論文 タイトル	内視鏡的ドレナージが奏功した外傷性脾損傷の 1 例		
著者	宮尾哉希, 松尾健司, 藤本直己, 小泉 葵, 橋本沙優里, 松原佳穂, 今中孝, 島 佳弘, 橋村友哉, 大舘秀太, 神保仁美, 竹下宏太郎, 中尾栄祐, 一ノ名巧, 赤峰瑛介, 浅井 哲, 細田洋平	掲載号 掲載年等	13(1), 61-64, 2025
掲載誌名	癌と化学療法		
執筆・論文 タイトル	当院における 80 歳以上の高齢者に対する高難度肝胆脾外科手術短期成績の検討		

著者	實近侑亮, 細田洋平, 廣部雅臣, 大竹弘泰, 福田雄介, 今中 孝, 林田一真, 加藤弘記, 久戸瀬洋三, 金 浩敏, 土屋康紀, 森 琢児, 小川淳宏, 丹羽英記, 小川 稔	掲載号 掲載年等	52(13), 950-952, 2025
掲載誌名	日本ヘルニア学会誌		
執筆・論文 タイトル	再発鼠径ヘルニアに対して審査腹腔鏡を行い TAIEPOM 法にて修復し得た 3 例		
著者	土屋康紀, 河本知樹, 松井佑起, 金浩敏, 森琢児, 小川稔, 上村佳央, 丹羽英記	掲載号 掲載年等	11(1), 43-49, 2026

【執筆・論文】	施設:	多根総合病院	部署:	泌尿器科
掲載誌名	Current Problems in Cancer: Case Reports.			
執筆・論文 タイトル	Long-term outcome of Bacillus Calmette-Gue' rin instillation therapy for the upper urinary tract carcinoma in situ.			
著者	Kota Iida, Kazuki Asada, Daiki ichi, Yoshitaka Itami, Yukinari Hosokawa, Kiyohide Fujimoto		掲載号 掲載年等	18(100368), 2025
掲載誌名	Anticancer Research			
執筆・論文 タイトル	Patients Diagnosed With Metastatic Castration-sensitive Prostate Cancer and High Serum Lactate Dehydrogenase Levels Did Not Receive an Adequate Dose of Cabazitaxel.			

著者	YASUSHI NAKAI, KENTA ONISHI, YORIAKI KAGEBAYASHI, KEN FUJIMOTO, AKIHIDE HIRAYAMA, MASAKI HARAMOTO, ATSUSHI TOMIOKA, KENJI OTSUKA, EIJIRO OKAJIMA, TAKESHI OTANI, YOSHIHIRO MATSUMOTO, YUKINARI HOSOKAWA,	掲載号 掲載年 等	45(9):3953-3960, 2025
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌		
執筆・論文 タイトル	当院における限局性前立腺癌に対する寡分割照射の治療成績		
著者	飯田孝太、橘進彰、吉川貴之祐、伊丹祥隆 橋村正哉、森本英之、石井健太郎、細川幸 成	掲載号 掲載年 等	(13)21-27,2025

【執筆・論文】	施設：	総合病院	部署：	耳鼻咽喉科
掲載誌名	日本耳鼻咽喉科学会会報			
執筆・論文 タイトル	内視鏡下経斜台手術でドレナージ法の工夫が奏功した錐体尖コレステリン肉芽腫例.			
著者	天津久郎, 竹宮由美, 大野峻, 平山靖子, 衣笠竜成, 小川竜 介.	掲載号 掲載年等	2025;128:841-847.	
掲載誌名	ENTONI			
執筆・論文 タイトル	鼻出血の保存的治療と観血的治療.			

著者	天津久郎.	掲載号 掲載年等	2025;309:97-102.
----	-------	-------------	------------------

【執筆・論文】	施設:	多根総合病院	部署:	形成外科
掲載誌名	形成外科			
執筆・論文 タイトル	眼瞼下垂症例における Dry Eye related Quality of life Score(DEQS) の検討(原著論文)			
著者	橋本 昌也, 若見 暁樹, 建林 里佳, 菱川 美紀, 上野 真理恵	掲載号 掲載年 等	68 巻 7 号 Page764- 771	
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌			
執筆・論文 タイトル	眼瞼下垂症例におけるDry Eye related Quality of life Score(DEQS) の検討(原著論文)			
著者	上野 真理恵, 若見 暁樹	掲載号 掲載年等	14 巻 1 号 Page31- 34	

【執筆・論文】	施設:	多根総合病院	部署:	腫瘍内科
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌			

執筆・論文 タイトル	ベタメタゾン、濃グリセリンによる症状制御が困難な乳癌のがん性髄膜炎患者に鎮静を使用せず終末期症状緩和に成功した 1 例		
著者	岡田佳也、米谷晶子、武内千秋、北代紗也、三木義仁	掲載号 掲載年 等	2025;13(1):37-42

【執筆・論文】	施設：	多根総合病院	部署：	看護部
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌			
執筆・論文 タイトル	機械的血栓回収療法におけるリアリティのある動画教材を用いた看護師教育の効果			
著者	岡本 咲里奈、津谷 量哉	掲載号 掲載年等	Vol.14 No.1 2026	

【執筆・論文】	施設：	総合病院	部署：	薬剤部
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌			
執筆・論文 タイトル	Exophiala dermatitidis による血流感染に抗菌薬適正使用支援チームが介入し軽快した1症例			
著者	森本 明美、松浦 大輔、 村崎 清伽、宮崎 悠、 松下 早苗、高宮 みさき	掲載号 掲載年等	Vol.13 No.1 2025	

【執筆・論文】	施設：	多根総合病院	部署：	放射線治療科
---------	-----	--------	-----	--------

掲載誌名	Radiological Physics and Technology		
執筆・論文 タイトル	A multi-institutional survey on technical variations in total body irradiation in Japan		
著者	M. Kitagawa, R. Notake, R. Nakahara, S. Hatanaka, T. Saho, K. Matsuda	掲載号 掲載年等	18, (2025) 347-357

【執筆・論文】	施設：	多根総合病院	部署：	看護部
掲載誌名	特定行為看護			
執筆・論文 タイトル	特定看護師の主体的活動のための支援体制とメンタルサポート			
著者	宮崎 悠	掲載号 掲載年等	Vol.1 No.3 2025 年 3 月 20 日発行	
掲載誌名	主任看護師 Style			
執筆・論文 タイトル	主任看護師が知っておきたい自部署の感染管理・対策			
著者	宮崎 悠	掲載号 掲載年等	第 34 巻第 3 号 2025 年 1 月 30 日発行	
掲載誌名	日総研 重症集中ケア			
執筆・論文 タイトル	ワーク・ライフ・バランスを尊重した職場環境とは			

著者	米倉 修司	掲載号 掲載年等	2025 年 2 月 3 月号(第 23 巻 第 6 号)
掲載誌名	日総研 重症集中ケア		
執筆・論文 タイトル	後輩に気づきを与えるためのアプローチとは？		
著者	米倉 修司	掲載号 掲載年等	2024 年 6 月 7 月号(第 23 巻 第 2 号)

社会医療法人きつこう会